

令和4年（2022年）第2回臨時会

枚方市教育委員会会議録

令和4年（2022年）8月9日

枚方市教育委員会

令和4年(2022年)第2回 枚方市教育委員会
臨時会議案書

案 件 名		
日程 1	報告第9号	臨時代理事項の報告について (1) 職員の人事異動について
日程 2	議案第5号	今後の中学校給食に関する方針(素案)について

○開催日時 令和4年(2022年)8月9日 午前10時30分から
○開催場所 輝きプラザきらら3階 教育委員会室

報告第9号

臨時代理事項の報告について

標題の件について、次のとおり臨時代理処分をしたので教育長に委任する事務等に関する規則（平成3年枚方市教育委員会規則第2号）第3条第3項の規定により教育委員会に報告し、承認を求める。

令和4年(2022年)8月9日

枚方市教育委員会
教育長 尾川 正洋

- 1 -

1. 臨時代理の理由

特に緊急を要するため

2. 臨時代理事項

臨時代理第11号 職員の人事異動について

- 2 -

臨時代理第11号

職員の人事異動について

標題の件について、教育長に委任する事務等に関する規則（平成3年枚方市教育委員会規則第2号）第3条第2項の規定により臨時代理する。

令和4年（2022年）7月29日

枚方市教育委員会
教育長 尾川 正洋

- 3 -

1. 臨時代理の内容

令和4年（2022年）8月1日付け人事異動

新	職・氏名	旧
枚方市立さだ西学校給食共同調理場 併 環境部 監督	技術職員 端野 晶之	枚方市立春日学校給食共同調理場 併 環境部 監督

- 4 -

議案第5号

今後の中学校給食に関する方針（素案）について

標題の件について、教育長に委任する事務等に関する規則（平成3年枚方市教育委員会規則第2号）第2条第1項第1号の規定により、次のとおり教育委員会の議決を求める。

令和4年（2022年）8月9日

枚方市教育委員会
教育長 尾川 正洋

1. 内容

別添のとおり

- 5 -

案件

今後の中学校給食に関する方針（素案）について

総合教育部 おいしい給食課

1. 施策等の背景・目的及び効果

今後の中学校給食の持続可能なあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、多方面から様々な意見を聴くため令和3年（2021年）11月に設置した「枚方市中学校給食のあり方懇話会」において、有識者やPTA、学校関係者からいただいたご意見や児童・生徒・保護者を対象に、令和4年（2022年）7月に実施した「中学校給食に関するアンケート調査」の結果等を踏まえ、今後の中学校給食に関する方針（素案）をとりまとめましたので、報告を行うものです。

2. 内容

(1) 枚方市の中学校給食の現状と課題について

(1) - 1. 枚方市の中学校給食の現状

①中学校給食実施にあたっての検討経過

平成23年から選択制・ランチボックス方式の中学校給食をスタートした平成28年までの検討経過を記載しています。

- 6 -

②枚方市の中学校給食の特長

現行の中学校給食の「温かい料理は温かい状態で、冷たい料理は冷たい状態で提供」「基本食とアレルギー対応食の二種類を毎日提供」などの特長を示しています。

③喫食率の推移

全体では、平成28年度に約24%だった喫食率が、令和4年度1学期では約35%となっているほか、学年別・学校別の喫食率の推移を示しています。

④喫食率向上の取り組み

これまでの喫食率向上に向けた取り組みを示しています。

(1) - 2. 枚方市の中学校給食の課題

喫食率が約35%で推移する中、ランチボックス方式の持続可能性に課題が出てきていることなどを挙げ、現行の中学校給食のこれまでの総括を行っています。

(2) 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方

(2) - 1. これまでの検討経過

①「枚方市中学校給食あり方懇話会」

成長期である中学生に必要となる「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見が多く示されたほか、実施にあたっては、「食缶方式」による「全員給食」で調理場は「センター方式」が望ましいという意見が多く出されました。

- 7 -

②「児童・生徒・保護者へのアンケート調査」

平成28年(2016年)4月から選択制の中学校給食を実施して6年が経過する中、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、児童・生徒・保護者を対象に「中学校給食に関するアンケート」調査を実施しました(別添資料参照)。

- ・調査期間…令和4年(2022年)7月8日(金)～同7月21日(木)
- ・対象者…市立中学校全生徒(10,119人)及び市立小学校3年生から6年生(13,406人)の児童とそれぞれの保護者
- ・調査方法…保護者へ配付した「アンケートのお知らせ」に記載したQRコードまたはURLから回答
- ・回答数…中学校 保護者1,673人(回収率16.5%)・生徒955人(回収率9.4%)
小学校 保護者3,732人(回収率27.8%)・児童3,632人(回収率27.1%)

保護者では、全員給食を望む回答が中学校で約58%、小学校で約72%、選択制を望む回答が中学校で約39%、小学校で約26%となっています。このほか多くの保護者から「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答がされています。

中学校生徒では選択制を望む回答が約83%、全員給食を望む回答は約13%、小学校児童では選択制を望む回答が約54%、全員給食を望む回答が約46%となっています。

- 8 -

また、「中学校給食を選択していますか（選択しようと思えますか）」という質問と、「全員給食がよいか、選択制がよいか、そのほかがよいか」という質問のクロス集計では、小学校・中学校ともに、いずれの選択肢でも、保護者については「全員給食がよい」という意見が最も多くなっています。また「中学校になったら給食を選択したい」と答えた児童については、「全員給食がよい」という意見が多かったのに対し、それ以外の児童では、「選択制給食がよい」との意見が多くみられました。生徒では、給食の選択の有無に関わらず、「選択制給食がよい」という意見が非常に多い結果となりました。

③懇話会で検討した以外の社会情勢の変化

新型コロナウイルス感染症等による原油価格高騰等への対応
災害時等における子どもたちの栄養確保のバックアップ

(2) - 2. 今後の中学校給食にふさわしい給食についての基本的な考え方

懇話会からの意見や、令和4年7月のアンケート結果を踏まえると、すべての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、すべての生徒の健全な成長を支えていくために、大前提となる安全安心な給食の提供を継承しつつ、コロナ禍などの影響があったとしても、持続的に給食を提供可能な体制を整えた上で、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

- 9 -

(3) 給食の提供方式等

①提供方式

食缶方式の採用

②食材・献立

安全安心な食材の確保と栄養バランスのとれた完全給食の献立

③食物アレルギー対応

学校給食における食物アレルギー対応指針に則った、学校・教育委員会・調理場が連携した体制づくり

④調理

センター方式の採用及び調理施設の整備

⑤配膳

配膳室の整備及び配膳員の配置

⑥給食費

現行の1食330円の想定と食材料費高騰への対応
公会計化について

- 10 -

(4) 実施に向けた取り組み

①安全安心

学校給食衛生管理基準や大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP（ハサップ）、枚方市学校給食衛生管理マニュアル、調理業務等作業基準などの遵守及び学校給食における食物アレルギー対応指針に則った体制整備など

②栄養・健康

栄養バランスのとれた完全給食の献立づくり及び調理における時間管理や適温提供など

③食育の推進

保健体育や技術・家庭、特別活動における給食の時間を中心とした指導などを相互に関連させながら、学校教育活動全体としての効果的な取り組みなど

④学校における対応

給食にかかる職員配置、日課変更、食物アレルギー対応、配膳室の容量、給食費の徴収などの各課題の解消

⑤経済的に困難を抱える家庭に対する支援

就学援助・生活保護等の受給が決定した家庭に対する継続的な支援

- 11 -

(5) 調理場の整備等

①センター方式での整備

センター方式を採用

第一学校給食共同調理場の一部改修及び新たな給食センターの整備

②センター方式の採用について

「集中的な衛生管理及び高度な衛生管理体制が期待できる」「自校方式の調理場より整備期間・コストを圧縮できる」など

③給食センターの整備手法

第一学校給食共同調理場の一部改修及び新たな給食センターを整備

国が策定した「多様なPPP／PFI手法導入を最優先的に検討するための指針」により、PFI手法導入を優先的に検討。

④検討課題

PFI手法導入を優先的に検討するほか、財源や整備用地等、第一学校給食共同調理場の一部改修及び改修中の選択制給食の代替措置、学校との調整などの課題を検討

(6) 今後の予定

全員給食実施の令和8年度（2026年度）までの年次スケジュール

- 12 -

3. 今後の予定

令和4年(2022年)8月	教育委員会において「今後の中学校給食に関する方針(素案)」を説明 総合教育会議における意見交換(8月12日) 教育子育て委員協議会において「今後の中学校給食に関する方針(素案)」を報告
9月	パブリックコメントの実施
10月	パブリックコメントの結果を踏まえ、「今後の中学校給食に関する方針(案)」を作成 教育委員会において「今後の中学校給食に関する方針(案)」を説明
11月	教育子育て委員協議会において「今後の中学校給食に関する方針(案)」を報告
12月	「今後の中学校給食に関する方針」策定

- 13 -

4. 総合計画等における根拠・位置付け

総合計画 基本目標	一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
施策目標 16	子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち



5. 関係法令・条例等

学校給食法

6. 事業費・財源及びコスト

《事業費》	可能性調査委託料	20,000,000円
	令和4年(2022年)12月補正	債務負担行為額
《財源》	一般財源	

- 14 -

今後の中学校給食に関する方針(素案)

令和4年8月

枚方市教育委員会

— 目次 —

はじめに	1
1. 枚方市の中学校給食の現状と課題について	□
1-1. 枚方市の中学校給食の現状	□
(1) 中学校給食実施にあたっての検討経過	
(2) 枚方市の中学校給食の特長	
(3) 喫食率の推移	
(4) 喫食率向上の取り組み	
1-2. 枚方市の中学校給食の課題	□
2. 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方	□
2-1. これまでの検討経過	□
(1) 枚方市中学校給食あり方懇話会	
(2) 児童・生徒・保護者へのアンケート調査	
(3) 懇話会で検討した以外の社会情勢の変化	
2-2. 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方 ..	□
3. 給食の提供方式等	□
(1) 提供方式	
(2) 食材・献立	
(3) 食物アレルギー対応	
(4) 調理	
(5) 配膳	
(6) 給食費	
4. 実施に向けた取り組み	□
(1) 安全安心	
(2) 栄養・健康	
(3) 食育の推進	
(4) 学校における対応	
(5) 経済的に困難を抱える家庭に対する支援	

5. 調理場の整備等□

- (1) センター方式での整備
- (2) 給食センターの整備手法
- (3) 検討課題

6. 今後の予定□

■はじめに

学校給食法(昭和29年法律第160号)では、第1条にその目的として、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、もつて学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ること」を規定しており、第4条では、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない」と規定されています。

また、食育基本法(平成17年法律第63号)の前文では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』が重要である」としています。

枚方市では、長らく中学校の昼食は家庭で用意してもらった弁当を持参することを基本としてきました。その後、平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきました。

一方、枚方市の選択制の中学校給食のスタートから6年以上が経過する中、「ランチボックス方式では個々の食事の量の調整が難しい」「調理委託等の受託者が限られてきている」などといった課題がでてきたことに加え、大阪府内でも、選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体が相次ぎ、令和4年8月現在、府内43市町村のうち全員給食の実施または移行決定があわせて37市町村となるなど、中学校給食を取り巻く社会情勢が大きく変化している状況にあります(別添資料参照)。

このような社会情勢の変化を踏まえ、教育委員会として、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方をあらためて検討することとし、令和3年10月に有識者・PTA・学校関係者で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を設置し、同年11月から令和4年3月まで5回にわたり、幅広く意見を聴取しました。

また、令和4年7月には、市立小中学校の児童・生徒及びその保護者を対象に、「中学校給食に関するアンケート調査」を実施しました。

これらに加え、令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による影響や、令和4年2月からのロシアによるウクライナ侵略の影響等による原油価格高騰等に起因する食材料費の価格上昇等に対応する持続可能な給食のあり方についてもあわせて検討してきました。

これらの検討結果等を踏まえ、大前提となる安全安心な学校給食の提供を継承しつつ、中学校給食の全員給食に向けた「今後の中学校給食に関する方針」を策定するものです。

1. 枚方市の中学校給食の現状と課題について

1-1. 枚方市の中学校給食の現状

枚方市では、長らく中学校の昼食は家庭で用意してもらった弁当を持参することを基本としてきました。その後、平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきました。

(1) 中学校給食実施(平成28年4月～)にあたっての検討経過

平成23年2月 中学校給食に関する小・中学生へのアンケート調査

6月 大阪府中学校給食導入促進事業(補助制度)創設

7月 枚方市中学校給食検討委員会(庁内委員会)設置

11月 実施手法を3つに絞り込んで検討

- ・全員喫食の共同調理場方式
- ・選択制の共同調理場(ランチボックス)方式
- ・選択制の民間調理場活用(ランチボックス)方式

平成24年1月 中学校給食に関する市民アンケート調査

2月 市民アンケートなどにおいて全員喫食を望む意見も多くみられたが、3つの実施手法から「選択制の共同調理場(ランチボックス)方式」を選定

<選定のポイント>

- ・食育や学校運営など5つの重点項目の比較検討で「対応でき特に課題がない」項目が最も多く、かつ「対応できるが大きな課題がある」項目が最も少ないもの
- ・将来的な財政負担を可能な限り抑制する観点からランニングコストが低額となるもの
- ・アンケート結果から児童・生徒・市民の意見を最も広く反映できるもの
- ・中学生の昼食の視点から給食や家庭からの弁当などを選ぶことができるもの

3月 大阪府へ選択制の共同調理場方式とした中学校給食導入実施計画書を提出

平成25年3月 中学校給食の実施手法等に関する方針を策定

平成26年～ 共同調理場・配膳室等施設整備開始

平成27年6月 枚方市学校給食会に中学校給食委員会を設置

9月 全中学校での配膳室整備完了

11月 第一学校給食共同調理場竣工

平成28年4月 全市立中学校で選択制・ランチボックス方式の給食スタート

(2) 枚方市の中学校給食の特長

- ・枚方市が整備した共同調理場で、毎日、当日調理
- ・温かい料理は温かい状態で、冷たい料理は冷たい状態で提供
- ・保温性の高いマグカップで汁物を提供
- ・基本食と7大アレルギーを使用しないアレルギー対応食の二種類を毎日提供
- ・小学校給食と同様に枚方市学校給食会が選定した食材を使用
- ・給食を喫食するか、家庭から弁当などを持参するか、選択ができる

(3) 喫食率の推移

●喫食率(全体)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全 体	24.3%	31.6%	32.7%	33.4%	33.8%	35.1%	34.9%

※令和4年度は1学期のみ

●喫食率(学年別)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1年生	32.9%	35.8%	30.3%	34.8%	33.1%	35.4%	37.3%
2年生	24.8%	33.0%	35.2%	30.8%	34.9%	34.1%	34.4%
3年生	15.6%	26.2%	32.6%	34.1%	29.9%	35.8%	33.1%

※令和4年度は1学期のみ

●喫食率(学校別)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
第一中学校	34.4%	50.3%	54.3%	52.3%	53.5%	53.4%	53.2%
第二中学校	30.6%	37.0%	37.3%	42.3%	47.9%	48.7%	48.9%
第三中学校	29.9%	36.7%	36.1%	35.7%	30.0%	30.9%	31.8%
第四中学校	24.7%	33.0%	34.5%	38.6%	40.4%	37.7%	34.8%
津田中学校	23.2%	26.9%	27.7%	24.5%	21.6%	22.5%	21.0%
枚方中学校	27.6%	35.9%	47.1%	41.6%	41.2%	37.5%	41.0%
中宮中学校	19.7%	33.7%	31.5%	36.1%	36.3%	37.9%	38.7%
招提中学校	24.8%	33.2%	35.2%	43.1%	38.9%	42.3%	38.4%
楠葉中学校	23.5%	33.5%	32.5%	37.7%	38.5%	44.4%	45.6%
楠葉西中学校	23.9%	33.5%	33.9%	43.5%	40.0%	42.4%	41.1%
東香里中学校	30.1%	36.6%	35.1%	33.4%	31.9%	36.1%	33.8%
長尾中学校	13.9%	16.7%	14.8%	20.8%	24.8%	24.8%	24.1%
杉中学校	18.1%	22.9%	22.2%	20.8%	22.5%	24.2%	23.8%
山田中学校	27.1%	33.4%	27.5%	29.8%	27.8%	29.3%	28.5%
渚西中学校	37.7%	48.6%	50.4%	48.9%	50.5%	45.5%	44.3%
桜丘中学校	20.3%	24.8%	30.0%	24.1%	27.1%	26.1%	23.3%
蹉跎中学校	21.4%	28.6%	30.2%	30.9%	32.2%	36.6%	37.5%
招提北中学校	24.6%	29.6%	35.3%	30.5%	31.5%	28.5%	31.1%
長尾西中学校	21.5%	21.4%	23.5%	19.1%	24.8%	29.5%	32.9%

※令和4年度は1学期のみ

喫食率の全体では、平成28年度の提供開始時は約24%でしたが、現在は約35%となっています。
学年別では、1・2年生の喫食率が高い傾向にあるものの、令和3年度では3年生が最も高い喫食率となっています。

学校別では、いずれの中学校も平成28年度から増加しているものの、学校ごとに喫食率が異なり、令和4年度では50%を超える学校が1校、40%を超える学校が5校、30%を超える学校が8校、30%未満の学校が5校となっています。

(4) 喫食率向上の取り組み

中学校給食導入実施計画書作成時に設定した喫食率50%を目標に、1ー1.(2)枚方市の中学校給食の特長をPRするとともに、喫食率向上に向け様々な取り組みを行っています。

<魅力の向上としての主な取り組み>

- ・フルカラー献立表の全生徒・教職員への配付
- ・全国の郷土料理や世界各国の料理を献立に採り入れて提供
- ・ごはんの量の選択が可能
- ・給食献立コンテストの実施

<利便性の向上としての主な取り組み>

- ・インターネット予約
- ・給食費のコンビニ・クレジットカード・自動口座振替による決済が可能
- ・自動予約のweb申請
- ・枚方市ホームページのトップページに中学校給食予約サイトのリンク掲載

<PR・情報発信の主な取り組み>

- ・小学校6年生を対象とした中学校給食試食会や入学説明会における中学校給食説明の実施
- ・給食だよりの発行
- ・給食 PR 動画(DVD)の制作
- ・学校・PTA との連携強化

1-2. 枚方市の中学校給食の課題

平成28年度からランチボックス方式による選択制給食を実施しつつ、喫食率50%を目指した給食の魅力・利便性向上の取り組みを進めてきました。しかし、中学校給食に関するアンケートによれば、現在の中学校給食の良くない点として「ほかに給食を食べている生徒がいない」「みんなで給食の準備をしないので面倒」などといった理由で給食を選択しない生徒が多く存在し、令和4年7月現在、喫食率は約35%で推移しており、依然として学校給食法第1条の目的を実現することが難しい状況となっています。

また、大阪府内の自治体において、ランチボックス方式から食缶方式に見直す方向性を打ち出している自治体が増えており、ランチボックス方式から食缶方式に見直す方向性を打ち出している自治体が増えており、ランチボックス方式の需要の減少に伴い、什器・保温カートなどのコスト上昇、受託業者が限られてくるなどといった持続可能性に課題がでてきている状況です。

こうしたことから、現行の選択制給食の安全安心な提供を継続させながら、並行して、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方を検討する必要があると判断しました。

2. 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方

2-1. これまでの検討経過

(1) 枚方市中学校給食あり方懇話会

1-2に記載した課題意識の下、中学校給食の持続可能なあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方をあらためて検討することとし、令和3年11月から有識者に加え、PTA・小中学校の校長・栄養教諭のそれぞれの代表の合計9人で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を計5回開催し、幅広く意見を聴取しました。

<各会議における主なテーマと聴取した意見>

【第1回会議】

●枚方市の学校給食の現況

市立小学校の食缶方式での全員給食、市立中学校のランチボックス方式での選択制給食、それぞれの現況を確認しました。

(主な意見)

- ・栄養が考えられている中学校給食の献立が広く保護者に伝わるようにすべきだ
- ・昼食を食べていない生徒がいると聞いているので全員給食が求められる

●枚方市のこれまでの学校給食に関するアンケート

平成23年2月の児童生徒対象のアンケートでは「中学校の昼食は家で作る弁当がよい」という回答が児童58%、生徒51%、「中学校の給食は学校給食がよい」という回答が児童19%、生徒18%などの結果がみられ、平成24年1月の市民対象のアンケートでは「全員給食が望ましい」という回答が59%、そのうち中学生以下の子どもがいる保護者は71%に上る結果となったこと、平成28年10月の中学校1年生対象のアンケートでは「継続的に給食を食べている」生徒は25%という結果、平成31年3月の中学校1・2年生のアンケートでは「継続的に給食を食べている」生徒は36%という結果などについて、意見が出されました。

(主な意見)

- ・成長期にある中学生にとって1日3食のうちの1食である昼ごはんをどうしていくかは重要
- ・買った昼食だと食事内容にも親の目が行き届かなくなるので全員給食が求められる

【第2回会議】

●中学生の時期に必要な食事

厚生労働省及び文部科学省の資料から、中学生が不足している栄養素や過剰となっている栄養素、学校給食によって摂取状況が充足される栄養素、学校給食に期待される「望ましい栄養量の摂取」「子どもの食生活全体の改善」などの考察を行い、それらに関する意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・学校給食が果たす役割として栄養面はもちろん日常の食生活・食習慣においても重要
- ・成長期に適切な栄養素摂取ができていない栄養についてアプローチできているのが学校給食

●枚方市の食育などの取り組み

枚方市の献立づくりについて、栄養面だけでなく季節感や旬、日本・世界の料理を取り入れるなどに取り組んでいること、食育に関する生徒アンケートなどを掲載した「食育だより」などの取り組みについて、意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・中学生期は食生活の自立に向けた大切な時期なので給食の果たす役割は大きい
- ・選択制の給食では食育の推進が限定的となっている
- ・全員給食であれば給食を活用した食育、学校教育としての食育を進めていくことが可能

●提供方式

ランチボックス方式と食缶方式、選択制と全員給食などの比較検証から意見が出されました。

(主な意見)

- ・食べ残しや個々の食べる量の問題、器の形状など食育の理由から食缶方式が望ましい
- ・義務教育の間は最低必要な栄養所要量が摂取できるようにしていくために全員給食が望まれる
- ・感染防止や個別に用意されているランチボックスが取り扱いやすいと思う

●中学校給食の望ましい方向性

各委員のそれぞれの立場からの意見をお聴きしました。

(主な意見)

- ・子どもたちの食育や栄養面を考えたときに生徒皆が一緒の全員給食が望ましい
- ・義務教育の子どもたちを責任をもって育てていくことを考えると全員給食を望む
- ・全員給食は望ましいが学校現場における課題等は多くある
- ・栄養面で給食に勝るものはなく平等性の観点からも全員給食がよい
- ・全員給食で小学校同様の食缶方式がよい
- ・中学生の心身の育成、栄養面の確保、学校が担うべき食育の観点から全員給食が望ましい
- ・持続可能な食育推進、成長期の中学生を誰一人残さず健全に育成していくため全員給食が必要

【第3回会議】

●調理施設・配膳室等

センター方式・自校方式・親子方式・民間調理場など調理施設の種別比較、中学校の配膳室の状況などを資料として、それらに関する意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・食育などの見地から子どもたちに最も近い自校方式がよい
- ・自校方式がよいが経費などの面で難しいのであればセンター方式の調理場が望ましい
- ・調理場は民間ではなく市が整備した第一共同調理場との組み合わせがよい
- ・民間調理場は市外の離れたところにあると栄養教諭などがなかなか見に行くことができない
- ・配膳室は生徒が急増した場合の整備や学校規模により位置や大きさの検討が必要

●給食時間

枚方市立中学校では給食時間の設定がないことから「他市の中学校の給食時間」「小学校の給食時間」を例示して、意見を求めました。

(主な意見)

- ・全員給食・食缶方式で実施している自治体が多いことを考えると枚方市でもできると思う
- ・子どもたちは小学校で経験しているので中学校になってもそのまま継続できると思う
- ・学校現場に「給食にかかる職員の増員」「日課の変更」「食物アレルギー対応」など課題は多い

・学校現場における課題の具体的な抽出が必要

●給食献立

中学校給食の「旬の食材を使う」「行事食」「日本の郷土料理・世界の料理を取り入れる」などの献立について、意見を求めました。

(主な意見)

- ・ランチボックス方式は再加熱し保温時間も長いので色合いや味ができ上がりと異なる
- ・給食献立表や給食だよりをみて家庭でも食文化を知ることができる
- ・テーマに沿った献立の取り組みは全員に学ぶチャンスとして生かしていないのがもったいない
- ・生徒に自分の置かれている環境や格差に悩ませないためにも同じ献立の全員給食が必要

【第4回会議】

●今後の課題の抽出

各委員のそれぞれの立場から意見を聴取しました。

(主な意見)

- ・小中学校の連携で全員給食を前提としたカリキュラム編成、食育の指導全体計画の作成が必要
- ・フードロス削減に向け現在のランチボックス方式を改めて量の調整ができるようにする
- ・新たな給食センターの設置にあたっての実現可能性や費用対効果、効率性等
- ・中学校のPTA 給食委員も小学校同様に19校すべてに委員がいた方がよいと思った
- ・学校現場は現実問題として施設面などの課題が山積している状況

●市民等からの意見募集等

アンケート調査について意見を求めました。

(主な意見)

- ・中学校給食の意義、目的、期待される効果を伝えたいのでアンケート調査を実施するのがよい
- ・給食内容・提供方式は小学校の実施方法を継続するという前提でアンケートをするのがよい
- ・児童生徒は嗜好の部分が大きく給食の必要性や給食費など客観的な判断ができないと思う
- ・過去のアンケート結果をみてもらって給食に関心を持ってもらったうえで意見募集すればよい

【第5回会議】

●市民等からの意見募集等

アンケート調査の内容やパブリックコメントのそれぞれの手法を示し、第4回会議に続いて意見を求めました。

(主な意見)

- ・小学校保護者に「中学校全員給食実施の賛否」「実施の場合の気になる点」を聞いてはどうか
- ・子どものアンケートでは小学校6年生に「中学校給食に期待すること」を聞いてはどうか
- ・市民への意見募集は実施するべきで、結果を保護者・生徒にみてもらいたい

●実施手法の比較

センター方式における現状とランチボックス方式での全員給食への移行、センター方式での食育方式・PFI活用、センター方式での民間調理場活用について比較検討資料を示し、意見を求めました。

(主な意見)

- ・献立も施設に見合ったものとしていくには栄養士や調理員とも相談が必要なので時間が必要
- ・膨大な費用がかかる中でも90%近くの自治体が全員給食を実施している
- ・全員給食実施までに何年か必要になるのでその期間を準備期間と考えてもよいのではないか
- ・実際に行うのは学校現場なので課題の抽出を調査して解決していくことが大切

●中学校生活への影響

「給食時間」「教職員の対応」「食物アレルギー対応」「給食費の徴収方法」「教育としての位置づけ」などの課題について、意見を求めました。

(主な意見)

- ・様々な課題について学校現場の状況を第一に考えていく必要がある
- ・全員給食の学校現場における課題について現場の教員の意見を聞くことが必要
- ・アレルギー対応については全員給食となれば組織として対応していかなければならない

- ・給食費は「未納だから食べてはいけない」ということは教育上好ましくない
- ・中学校給食も全員給食となったら小学校のような徴収方法ができるのか検討が必要
- ・全員給食となれば週1回でも食育の教材としての給食をモデルとして示してもらえたらと思う
- ・給食の時間ではなく食育の時間としてカリキュラム変更できれば実施しやすいのではないか

●大阪府内の中学校給食の実施状況

令和4年3月現在で、大阪府内43市町村のうち全員給食は33市町村、選択制は10市、選択制10市のうち全員給食への移行が決定している市が3市(令和4年8月現在では4市)、全員給食についての検討中が本市を含め3市との状況、また、全員給食33市町村のうち26市町村が食缶方式、3市が食缶・ランチボックス方式の併用、ランチボックス方式4市町のうち1市が食缶方式への変更が決定している状況(別添資料参照)を報告し、意見を求めました。

(主な意見)

- ・全員給食は食缶方式が多く採用されていることが分かる
- ・食缶方式は経費面と食育の観点から優位性があり効率もよいと考える
- ・SDGsの観点から継続的に実施していく必要があるので食缶方式の市を参考にすべきである
- ・全員給食となれば他市でどのような工夫がなされているのか調査して課題解決に生かせればよい

枚方市中学校給食あり方懇話会全5回の会議で検証した資料各委員が意見を述べられています。

また、平成25年3月に枚方市教育委員会が現行のランチボックス方式・選択制給食導入の考え方を示した「中学校給食の実施手法等に関する方針」策定時から比べると、大阪府内でも選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体が相次ぐ中、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方について、各委員にはそれぞれの立場から様々な意見をいただきました。

その中でも、とくに成長期である中学生に必要な「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見が多く示されました。また、実施にあたっては、「食缶方式」による「全員給食」で調理場は「センター方式」が望ましいという意見が多く出されました。

(2) 児童・生徒・保護者へのアンケート調査

平成28年4月から選択制の中学校給食を実施して6年が経過する中、今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、児童・生徒・保護者を対象に「中学校給食に関するアンケート」調査を実施しました(別添資料参照)。

- ・調査期間…令和4年7月8日(金)～同7月21日(木)
- ・対象者…市立中学校全生徒(10,119人)及び市立小学校3年生から6年生(13,406人)の児童とそれぞれの保護者
- ・調査方法…保護者へ配付した「アンケートのお知らせ」に記載したQRコードまたはURLから回答
- ・回答数…中学校 保護者 1,673人(回収率16.5%)・生徒 955人(回収率9.4%)
小学校 保護者 3,732人(回収率27.8%)・児童 3,632人(回収率27.1%)

【調査結果】(抜粋)

●給食の良い点について

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
仕事で弁当の用意が難しいので助かる	62.0%	61.9%
家庭での献立づくりの負担が軽減される	62.6%	65.3%
栄養のバランスがとれる	75.1%	85.4%
好き嫌いを直すきっかけになる	19.6%	31.3%
子どもの荷物が減る	48.3%	56.9%
家庭で食べることがないメニューがある	52.8%	64.5%
食への関心や知識を得られる	16.9%	21.1%
安くて経済的	27.6%	28.9%
良い点はない	0.2%	1.4%
その他	3.5%	3.4%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成24年1月市民アンケート	
おいしかった	18.9%
家庭での弁当づくりの負担が軽減された	20.2%
健康・体力づくりにつながった	13.9%
好き嫌いを直すきっかけになった	12.5%
みんなで同じものを食べる楽しみ	24.0%
食への関心や知識を得られた	6.5%
良い点はなかった	1.6%
その他	2.4%

●給食の良い点について

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
おいしいと思う	41.7%	66.7%
家庭での献立づくりの負担が軽減される	73.6%	36.2%
栄養のバランスがとれる	56.7%	64.8%
食への関心や知識を得られる	12.1%	21.9%
好き嫌いを直すきっかけになる	11.2%	24.9%
家庭で食べることがないメニューがある	36.6%	57.4%
荷物が減る	61.6%	35.0%
安くて経済的	28.7%	—
みんなが同じものを食べることができる	—	34.3%
良い点はない	3.6%	1.4%
その他	6.3%	3.4%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
給食の方が好き	10.1%	7.0%
親の手間が省ける	23.5%	25.4%
栄養のバランスがとれる	17.7%	20.9%
好き嫌いを直せる	3.8%	2.8%
みんなが同じものを食べられる	4.6%	7.8%
家で食べられないものが食べられる	8.1%	8.3%
安くて経済的	8.4%	8.9%
弁当を作ってもらえない	0.6%	0.6%
弁当だと荷物になる	20.3%	15.2%
学校で弁当を食べたくない	1.2%	1.2%
その他	1.7%	1.9%

(参考)平成31年3月生徒アンケート	
中学生に必要な栄養のバランスがとれる	21.1%
毎日色々なメニューを食べられる	15.6%
温かいメニューがそろっている	18.5%
普段食べられないメニューがそろっている	6.8%
国産食材など安心して食べることができる	3.7%
みんなで同じものを食べるのが楽しい	1.3%
弁当作りの負担が軽くなる	20.0%
安くて経済的	5.3%
良いと思うところがない	6.3%
その他	1.2%

●給食の良くない点について

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
子どもが給食を嫌がる	77.4%	25.8%
家でつくった弁当の方がよい	27.3%	5.9%
パンなどを購入する方がよい	1.9%	0.5%
献立に変化がない	1.6%	4.0%
子どもが嫌いな食べ物が多い	13.4%	11.3%
量が多い	13.9%	6.0%
量が少ない	2.3%	13.0%
給食費が高い	10.3%	14.3%
良くない点はない	4.8%	38.0%
その他	5.5%	12.0%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成24年1月市民アンケート	
おいしくなかった	17.3%
嫌いなものを食べなければならない	32.0%
給食当番をしなければならない	10.2%
量が多かった	5.6%
量が少なかった	6.7%
家でつくった弁当の方がよい	6.7%
良くない点はなかった	18.0%
その他	3.5%

●給食の良くない点について

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
おいしくないと思う	40.9%	6.7%
家でつくった弁当の方がよい	69.8%	16.9%
パンなどを購入する方がよい	8.8%	
気に入ったメニューがない	23.8%	7.5%
嫌いな食べ物が出てくる	36.3%	36.8%
量が多い・量が少ない	40.5%	—
昼の時間がなくなる	18.3%	7.6%
給食費が高い	7.3%	—
食べ残しができないように思う	—	11.7%
小学校でもうあきた	—	6.7%
給食当番がいや	—	26.1%
良くない点はない	13.1%	41.4%
その他	8.2%	2.3%

※今回の調査は複数回答としているため合計が100%になりません。

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
給食はまずい	9.4%	4.3%
嫌いな食べ物が出てくる	13.2%	15.0%
献立に変化がない	4.6%	5.7%
給食当番がいや	20.3%	18.5%
量が不足	6.0%	5.5%
昼の時間がなくなる	10.8%	8.6%
残さず食べなければならない	7.3%	7.8%
弁当の方がよい	16.9%	23.3%
給食はもうあきた	9.4%	9.1%
その他	2.1%	2.2%

(参考)平成31年3月生徒アンケート	
食べたくない、食べられないものが入っている	22.5%
家庭からもってくる弁当の方が好き	46.9%
コンビニの弁当やパンの方が好き	10.1%
毎月の申し込みが面倒	5.8%
毎月の申し込みの締め切りを忘れる	2.9%
値段が高い	4.6%
その他	6.6%

●中学校における昼食について【保護者】

今回／保護者	中学保護者	小学保護者
全員を対象とした給食が望ましい	58.3%	71.8%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	39.1%	26.1%
その他	2.6%	2.1%

(参考)平成24年1月市民アンケート	
全員を対象とした給食が望ましい	59.4%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	23.2%
弁当やパン等を持参するのが望ましい	13.1%
その他	4.3%

●中学校における昼食について【児童生徒】

今回／生徒・児童	中学生徒	小学児童
全員を対象とした給食が望ましい	13.3%	45.8%
給食または弁当・パン等の持参を選択できるのが望ましい	82.8%	54.2%
その他	3.9%	0%

(参考)平成23年2月生徒・児童アンケート		
	生徒	児童
家で作る弁当がよい	51.4%	58.2%
学校給食がよい	17.6%	18.5%
お店で買った弁当・パン等がよい	21.1%	15.5%
弁当屋さんが届けてくれるのがよい	8.3%	6.3%
その他	1.6%	1.5%

保護者では、全員給食を望む回答が中学校で約58%、小学校で約72%、選択制を望む回答が中学校で約39%、小学校で約26%となっています。このほか多くの保護者から「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答がされています。

中学校生徒では選択制を望む回答が約83%、全員給食を望む回答は約13%、小学校児童では選択制を望む回答が約54%、全員給食を望む回答が約46%となっています。

●質問1と質問4のクロス集計

(質問1)中学校給食を選択していますか

(質問4)中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問1 \ 質問4	回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択している	保護者	54.6%	44.1%	1.3%
	生徒	17.9%	76.1%	6.0%
② 給食は選択していたが今は選択していない	保護者	64.8%	31.2%	4.0%
	生徒	8.5%	88.1%	3.4%
③ 弁当やパンを持参	保護者	61.6%	34.6%	3.8%
	生徒	6.8%	92.9%	0.3%
④ その他	保護者	50.0%	50.0%	0%
	生徒	0%	100%	0%

いずれの選択肢でも、保護者については「全員給食を望む」という意見が最も多くなっています。

生徒では、給食の選択の有無に関わらず、「選択制の給食を望む」という意見が非常に多い結果となりました。

このほかのクロス集計においても、小学校・中学校とも保護者については「全員給食を望む」という意見が最も多くなっており、児童・生徒では「選択制の給食を望む」という回答が多い結果となっています。

今後も、パブリックコメント実施にあわせて「(学校向け)中学校給食についてのリーフレット」等で周知にあたるなど、児童・生徒・保護者の意向確認を継続的に実施していく必要があると考えています。

(3) 懇話会で検討した以外の社会情勢の変化(新型コロナウイルス感染症等による原油価格高騰等への対応)

令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による影響や、令和4年2月からのロシアによるウクライナ侵略の影響等による原油価格高騰等に対応し、保護者負担となる給食費を引き上げることなく安定的で持続可能な給食提供を継続するため、国の臨時交付金を活用して、給食の食材料の価格上昇分の負担軽減に向けた補助事業を、令和4年度に創設しました。この事業を継続させていくため、国等に補助制度の要望活動を行っています。

こうした取り組みは、現在の選択制給食のもとでは、給食を選択していない家庭における家計負担は増加することが想定される中、持参する弁当の量を減らすことなども想定されます。成長著しい時期の中学生の発達を鑑みると、こうした影響に左右されないように中学校全員給食にすることが望ましいと考えます。

また、災害時には、学校給食調理場が機能しておれば、家庭や避難先で十分な食事が摂れない状況となっても、学校給食が栄養確保のバックアップの役割を果たすことが可能です。

なお、このような取り組みを進めていくうえで、給食費について公会計化を行うことで、より弾力的かつ機動的に対応可能になるものと考えます。

2-2. 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方

2-1. 検討経過を踏まえると、枚方市中学校給食あり方懇話会では、とくに「栄養・健康」「教育・食育」の重要性がクローズアップされました。また、アンケート調査では、多くの保護者から「全員給食が望ましい」「栄養のバランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答がありました。こうしたことから、今後、生徒一人ひとりの健康・成長を支え、将来にわたって「食」への関心や理解を深めるための取り組みを進めていくことが求められています。学校給食実施基準の一部改正について(通知・文部科学省 令和3年2月12日)では、学校給食に期待できることが挙げられており、懇話会からの意見と同じく、これからの中学校給食のあり方、中学生にとってふさわしい給食のあり方の方向性を示すものと考えています。

【望ましい栄養量の摂取ができる】

学校給食実施基準(学校給食法第8条)の学校給食摂取基準に基づいた献立により、家庭での食事不足していると推測される栄養素を、学校給食により補い、生徒に必要な栄養量を摂取できる。

【多様な食にふれることができる】

穀類、野菜類、豆類、果実類、きのこ類、藻類、魚介類、肉類、卵類、乳類等を組み合わせ、調理方法の改善を図るとともに、児童生徒の嗜好の偏りをなくすよう配慮し、家庭における食生活の指標となる。

【食に関する重要な教材となる】

食に関する指導を効果的に進めるため、給食を「生きた教材」として活用することにより、日本の食生活の実践、伝統的な食文化の継承、児童生徒の日常又は将来の食事作りにつなげることができる。

【望ましい食習慣の形成につながる】

食器などを安全性が確保され、料理形態に即したものとすることで、児童生徒の望ましい食習慣の形成、食文化の継承等につなげることができる。

【食に関する実践力が身につく】

給食の準備から片付けまでの活動を通して、計画的・継続的な指導と適切な給食時間を確保することにより、児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力が身につく。

【児童生徒の食生活の改善につながる】

望ましい栄養バランスについて、児童生徒への食に関する指導のみならず、家庭への情報発信を行うことにより、食生活全体の改善が期待できる。

これら学校給食に期待できるすべての事項が、成長期であり食生活の基本が形成される年齢期の中学生にとってふさわしい給食のあり方だと考えられます。

とりわけ、枚方市中学校給食あり方懇話会の委員からは「給食だけでなく昼食自体を食べていない子どもがいる」「コロナ禍による貧困はなかなか見えてこないが、中学生の食に大きな影響が及んでいることが懸念される」などといった指摘があり、アンケート調査の結果から、1日3食食べていない生徒の中に給食を食べていない生徒が多数ではないものの存在することが分かりました。枚方市の中学校の生徒がだれ一人取り残されることなく、1日1食でも栄養バランスのとれた食の確保ができる環境づくりが必要と考えています。

本市では、選択制給食を実施しつつ、その選択する生徒を増加させることにより、学校給食法の目的の実現をめざして取り組みを進めてきました。しかし、現在の選択制の給食では、生徒の喫食率が現在約35%で推移しており、学校給食法の目的を実現することが難しい状況となっています。

また、食材料費を除く調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、学校給食法に基づき、市が負担していますが、生徒の喫食率が向上しない状況を踏まえれば、教育の機会均等や行政サービスの公平性の観点から、このまま選択制の給食を継続することは不適當であり、すべての生徒が給食を喫食できる環境整備が必要だと考えます。

こうしたことから、すべての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、すべての生徒の健全な成長を支えていくために、大前提となる安全安心な給食の提供を継承しつつ、コロナ禍などの影響があったとしても、持続的に給食を提供可能な体制を整えた上で、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

3. 給食の提供方式等

(1) 提供方式

2-2.「中学校にとってふさわしい給食」の実現に向け、また、食べ残しや個々の食べる量の問題、器の形状や生徒同士の協力などといった食育の観点からも、調理場で調理した給食を、小学校と同様に、保温容器(食缶)に入れて各中学校に配送し、生徒が各々の食器に配膳する食缶方式を採用します。

(2) 食材・献立

安全安心な食材を確保するため、教育委員会の責任のもと枚方市学校給食会が主導して、安全性や品質を確認したうえで、選定・購入し、定期的に確認を行います。また、成長期に見合う栄養バランスのとれた、主菜・副食・牛乳からなる完全給食の献立を枚方市学校給食会が主導して作成します。なお、公会計導入後には、教育委員会事務局が責任をもって選定・購入・確認を行います。

(3) 食物アレルギー対応

学校給食における食物アレルギー対応指針に則り、食物アレルギーに対応した専用区画などの施設整備、学校・教育委員会・調理場などが連携した体制づくりを進めていきます。

(4) 調理

令和4年度から令和10年度までの市立中学校の生徒・教員の推計数などから提供食数を12,000食/日と想定しており、衛生管理が徹底された安全安心で、かつ、安定的・継続的に提供できる調理方式としてセンター方式を採用したいと考えています。給食センターの整備手法・用地等については、今後、庁内委員会等において検討を進め、実施計画等を策定します。

(5) 配膳

配膳室を現行のまま使用が可能な学校はありますが、拡充や改修が必要となる学校の配膳室については、給食センターの整備計画とあわせて検討します。また、配膳員の配置については、現行と同様の内容で中学校給食の調理配送配膳等業務の委託を行う予定です。

(6) 給食費

学校給食法に基づき、食材料費は保護者負担とし、現行の中学校給食と同じ1食330円を想定しています。

食材料費のほかの調理場施設・設備の管理運営、光熱水費、人件費、調理委託などに係る経費は、これまで同様に市が負担します。また、食材料費の高騰に対応し、給食費を引き上げることなく安定的な給食提供を継続するため、国の交付金の活用ができるよう、引き続き、国等へ補助制度の要望活動を行います。

なお、給食費を公会計化とすることで、新型コロナウイルスを含む災害時には、臨時的に保護者が負担する給食費の徴収が困難な状況の中でも、持続的に学校給食の提供が可能となります。

公会計化については、大幅な業務体制の変更や新たな専門部署の設置、小・中学校ごとの会計システムの導入、それぞれの予算化などの課題があることから、今後、先行導入されている自治体の事例研究などに取り組みながら、各課題を検討していきます。

■給食費の公会計化について

令和元年(2019年)の文部科学省「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」では、小中学校の教員の業務負担の軽減のため、給食費を地方公共団体の会計に組み入れる「公会計制度」を採用するとともに、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことが適切であると示されています。

4. 実施に向けた取り組み

(1) 安全安心

給食センターは、改修・整備、運営のどの段階においても、学校給食衛生管理基準(文部科学省)、大量調理施設衛生管理マニュアル(厚生労働省)、食品の安全を確保するための世界基準・衛生管理の規格 HACCP、枚方市学校給食衛生管理マニュアル(枚方市)、調理業務等作業基準(枚方市)に基づき徹底した衛生管理を行うものとし、また、新たな整備においては、ドライシステムの導入、衛生管理の区画の明確化などを必須とし、運営においては、安全安心な食材料の確保、衛生管理体制の構築、給食センターと学校との連絡体制の確立など、安心安全の取り組みを必須とします。また、学校給食における食物アレルギー対応指針(文部科学省)に則り、食物アレルギーに対応した専用区画などの整備、学校・教育委員会・調理場などが連携した体制づくりを進めていきます。

(2) 栄養・健康

成長期に見合う栄養バランスのとれた、健康面にも配慮した主菜・副食・牛乳からなる生徒にふさわしい完全給食の献立を栄養教諭や教育委員会の管理栄養士を中心に枚方市学校給食会が主導して作成します。調理段階においても、時間管理や適温提供、食材を活かした彩りや食感がおいしく感じられる工夫など、生徒が楽しい給食時間を迎えることができる取り組みを進めます。また、新たなメニューづくりにも検討を進めていきます。

(3) 食育の推進

中学校の全員給食が実現すると、すべての生徒が同じメニューの給食を喫食するというメリットを生かした食育に取り組むことが可能となります。このため、食の指導については、保健体育における望ましい生活習慣の育成、技術・家庭における食生活に関する指導、特別活動における給食の時間を中心とした指導などを相互に関連させながら、学校教育活動全体として効果的に取り組む体制づくりを行います。

教育委員会事務局関係各課と学校の連携のもと、栄養教諭が中心となりつつ、枚方市学校給食会のネットワークを活用した取り組みを進めるとともに、SDGsの観点からの食に関する学校の学びを好事例として横展開していくなど、食育の充実を進めます。

(4) 学校における対応

給食にかかる職員の配置、日課の変更(給食の時間の設定)、食物アレルギー対応、配膳室の容量、給食費の徴収、食育の対応、保護者等への周知・説明など、各課題の解消に向け、全員給食実施までのスケジュールにおいて、先行導入校も活用して、検証を行いながら、教育委員会と学校間で十分な連絡調整を行います。

(5) 経済的に困難を抱える家庭に対する支援

すべての生徒が給食を喫食できるよう、就学援助・生活保護等の受給が決定した家庭には、引き続き、各種制度から給食費が支給されるものとしします。

5. 調理場の整備等

(1) センター方式での整備

高度な衛生管理体制のもと、最大12,000食/日の調理が可能で、安全安心な給食が安定的・継続的に提供できるよう調理場の整備にあたってはセンター方式を採用したいと考えています。

具体的には、現行の給食センター・第一学校給食共同調理場では調理能力最大6,000食/日の食缶方式への一部改修を行うとともに、新たに6,000食/日の調理が可能な給食センターを整備する必要があります。

■センター方式の採用について

枚方市中学校給食あり方懇話会において、自校式もしくはセンター方式が望ましいとされたことを受け、調理場の種別ごとに比較検討(別添資料参照)を行いました。その結果、次の理由により、実施方式はセンター方式を採用することとしたものです。

- ・集中的な衛生管理及び高度な衛生管理体制が期待できる
- ・自校方式の調理場より整備期間・コストを大幅に圧縮できる
- ・厨房機器などの設備を充実させることができる
- ・一括納品が可能で食材ロスの削減につながる
- ・市内または近隣立地のため調理後の配送に時間がかからずリスクが低い
- ・突発的な対応や変更が可能
- ・防災機能の導入が可能
- ・市が食材選定・献立立案を主導的にできる

(2) 給食センターの整備手法

第一学校給食共同調理場の一部改修に加え、新たな給食センターを整備することで、安全安心な給食が安定的・継続的に提供できる体制を構築します。

国が平成27年に策定した「多様な PPP/PFI 手法導入を最優先的に検討するための指針」において、人口20万人以上の地方公共団体では10億円以上の公共施設の整備または年間維持管理費が概ね1億円以上の事業においては PPP/PFI 手法導入を優先的に検討することとされています。

そうしたことから新たな給食センターの整備手法としては、公民連携による PPP/PFI 手法導入を優先的に検討することとします。PFI 手法を導入した場合には、施設整備費の平準化が図られ、センター開設後の給食提供が15～20年継続できることが担保されるものと想定していますが、今後、庁内委員会等で検討を重ねたうえで実施計画等を策定し、令和5年度には可能性調査(外部コンサルタント活用)を実施したいと考えています。

また、PPP/PFI 手法導入の検討と並行して、財源確保や整備用地等の検討も進めていきます。

(3) 検討課題

(1)、(2)のほか、次のような課題についても、検討し調整をしていきます。

- ・中学校の配膳室改修等の検討
- ・第一学校給食共同調理場の一部改修の工事期間の選択制給食の代替措置の検討
- ・全員給食の実施に伴い必要となる学校との調整(保護者説明等含む)

6. 今後の予定

本方針策定時点での年次スケジュールです。

令和4年度(2022年度)	8月 今後の中学校給食に関する方針(素案)作成 PPP/PFI 手法・整備用地等の検討 9月 パブリックコメントの実施(今後の中学校給食に関する方針(素案)) 今後の中学校給食に関する方針(案)作成 12月 今後の中学校給食に関する方針策定 実施計画等の策定 PFI事業の可能性調査に係る債務負担行為の設定の提案 (12月議会)	
令和5年度(2023年度)	【PFI 事業】 4月 可能性調査の実施	【中学校・第一学校給食共同調理場】 4月 配膳室調査・各学校調整 先行導入校での全員給食実施に向けた調整 開始 11月

		第一学校給食調理場調理配送等委託(R6.8)
令和6年度(2024年度)	5月 事業者選定 6月 調理場設計・建設	6月 第一学校給食共同調理場設計・改修 10月 配膳室設計
令和7年度(2025年度)	12月 開設準備	7月 配膳室改修 開設準備 8月 先行導入校で全員給食実施
令和8年度(2026年度)	4月または8月 全員給食の実施	

※実施月は変更となることがあります。

大阪府内の中学校給食実施状況

43市町村のうち全員給食は33市町村(76.7%)・選択制給食は10市(23.3%)
選択制給食10市のうち4市が全員給食への移行を決定

「中学校給食導入促進事業の進捗状況について」大阪府教育庁(令和2年10月末現在)に、聞き取り調査(R3・4年度)を加えたもの

		センター方式	民間調理場 活用方式	自校調理 方式	親子調理 方式	
全員給食	食缶	池田市	松原市	大阪市		
		四條畷市	泉大津市	高槻市※2		
		交野市	東大阪市	島本町		
		柏原市		箕面市		
		藤井寺市		門真市		
		大阪狭山市		和泉市		
		太子町		高石市		
		河南町		能勢町		
		千早赤阪村	堺市・茨木市・摂津市いずれも 選択制・ランチボックス方式か らの移行	忠岡町		
		岸和田市		熊取町		
		泉佐野市		田尻町※2		
		堺市(R7~)※3		岬町		
		茨木市(R7~)				
	摂津市(時期未定)					
	併用			豊中市<食缶方式+小おかずはラン チボックス>		
				大東市<ランチボックス方式+食缶>	選択制・ランチボックス 方式からの移行	
				泉南市<ランチボックス方式+食缶>		
				八尾市(R5.9~)<ランチボックス方 式+汁物・冷菜は食缶>		
	ランチボックス			豊能町		
				寝屋川市 ⇒センター+親子方式・食缶方式へ移行 (時期未定)		
			貝塚市			
			阪南市			
選択制給食	ランチボックス	枚方市	吹田市 ⇒全員給食検討中			
		河内長野市 ⇒全員給食検討中	羽曳野市			
	食缶※1		守口市	富田林市		

※1 カフェテリア方式(配膳員が盛付けて生徒に提供)

※2 給食費無償化実施

※3 堺市(生徒数:20,583人)は枚方市と同じ保温ランチボックス方式から食缶方式・全員給食へ移行

第5表

都道府県別 校給食実施状況（公立中 校数）

平成30年5月1日現在

都道府県名	総数	完全給食		補食給食		ミルク給食		計	
		学校数	百分比	学校数	百分比	学校数	百分比	学校数	百分比
1 北海道	576	561	97.4	4	0.7	6	1.0	571	99.1
2 青森県	156	146	93.6	1	0.6	9	5.8	156	100.0
3 岩手県	159	135	84.9	7	4.4	17	10.7	159	100.0
4 宮城県	200	194	97.0	4	2.0	1	0.5	199	99.5
5 秋田県	113	112	99.1	-	-	-	-	112	99.1
6 山形県	98	93	94.9	4	4.1	-	-	97	99.0
7 福島県	219	219	100.0	-	-	-	-	219	100.0
8 茨城県	211	208	98.6	3	1.4	-	-	211	100.0
9 栃木県	156	151	96.8	-	-	-	-	151	96.8
10 群馬県	161	159	98.8	-	-	-	-	159	98.8
11 埼玉県	414	412	99.5	-	-	1	0.2	413	99.8
12 千葉県	377	377	100.0	-	-	-	-	377	100.0
13 東京都	611	607	99.3	-	-	2	0.3	609	99.7
14 神奈川県	411	183	44.5	-	-	79	19.2	262	63.7
15 新潟県	227	225	99.1	-	-	1	0.4	226	99.6
16 富山県	80	79	98.8	-	-	-	-	79	98.8
17 石川県	84	82	97.6	-	-	1	1.2	83	98.8
18 福井県	75	72	96.0	3	4.0	-	-	75	100.0
19 山梨県	81	79	97.5	-	-	-	-	79	97.5
20 長野県	187	182	97.3	-	-	2	1.1	184	98.4
21 岐阜県	178	177	99.4	-	-	-	-	177	99.4
22 静岡県	263	258	98.1	1	0.4	3	1.1	262	99.6
23 愛知県	419	416	99.3	-	-	-	-	416	99.3
24 三重県	153	143	93.5	-	-	3	2.0	146	95.4
25 滋賀県	98	64	65.3	1	1.0	4	4.1	69	70.4
26 京都府	163	123	75.5	-	-	1	0.6	124	76.1
27 大阪府	458	426	93.0	3	0.7	-	-	429	93.7
28 兵庫県	343	298	86.9	1	0.3	8	2.3	307	89.5
29 奈良県	103	100	97.1	-	-	1	1.0	101	98.1
30 和歌山県	120	110	91.7	-	-	-	-	110	91.7
31 鳥取県	56	54	96.4	-	-	-	-	54	96.4
32 島根県	96	94	97.9	-	-	-	-	94	97.9
33 岡山県	154	149	96.8	-	-	3	1.9	152	98.7
34 広島県	232	205	88.4	5	2.2	21	9.1	231	99.6
35 山口県	146	145	99.3	-	-	-	-	145	99.3
36 徳島県	82	81	98.8	-	-	-	-	81	98.8
37 香川県	67	66	98.5	-	-	-	-	66	98.5
38 愛媛県	128	126	98.4	-	-	-	-	126	98.4
39 高知県	105	81	77.1	-	-	14	13.3	95	90.5
40 福岡県	337	319	94.7	-	-	18	5.3	337	100.0
41 佐賀県	85	62	72.9	2	2.4	20	23.5	84	98.8
42 長崎県	171	163	95.3	-	-	7	4.1	170	99.4
43 熊本県	163	158	96.9	-	-	-	-	158	96.9
44 大分県	124	122	98.4	-	-	2	1.6	124	100.0
45 宮崎県	128	124	96.9	-	-	-	-	124	96.9
46 鹿児島県	219	217	99.1	-	-	-	-	217	99.1
47 沖縄県	149	145	97.3	-	-	-	-	145	97.3
計	9,336	8,702	93.2	39	0.4	224	2.4	8,965	96.0

第6表

都道府県別学校給食実施状況（公立中学校生徒数）

平成30年5月1日現在

都道府県名	総数	完全給食		補食給食		ミルク給食		計	
		生徒数	百分比	生徒数	百分比	生徒数	百分比	生徒数	百分比
1 北海道	122,758	121,995	99.4	339	0.3	251	0.2	122,585	99.9
2 青森県	31,182	29,684	95.2	60	0.2	1,199	3.8	30,943	99.2
3 岩手県	31,061	24,464	78.8	662	2.1	5,852	18.8	30,978	99.7
4 宮城県	57,513	56,384	98.0	586	1.0	302	0.5	57,272	99.6
5 秋田県	22,593	22,442	99.3	-	-	-	-	22,442	99.3
6 山形県	28,011	26,663	95.2	1,233	4.4	-	-	27,896	99.6
7 福島県	48,473	47,853	98.7	-	-	-	-	47,853	98.7
8 茨城県	71,164	70,341	98.8	542	0.8	-	-	70,883	99.6
9 栃木県	51,245	49,919	97.4	-	-	-	-	49,919	97.4
10 群馬県	51,112	50,599	99.0	-	-	-	-	50,599	99.0
11 埼玉県	177,291	176,230	99.4	-	-	221	0.1	176,451	99.5
12 千葉県	147,785	146,692	99.3	-	-	-	-	146,692	99.3
13 東京都	223,216	198,326	88.8	-	-	63	0.0	198,389	88.9
14 神奈川県	199,792	65,960	33.0	-	-	30,867	15.4	96,827	48.5
15 新潟県	53,610	53,126	99.1	-	-	12	0.0	53,138	99.1
16 富山県	27,117	27,007	99.6	-	-	-	-	27,007	99.6
17 石川県	29,941	29,470	98.4	-	-	348	1.2	29,818	99.6
18 福井県	20,919	18,800	89.9	2,073	9.9	-	-	20,873	99.8
19 山梨県	20,580	20,339	98.8	-	-	-	-	20,339	98.8
20 長野県	54,723	53,725	98.2	-	-	470	0.9	54,195	99.0
21 岐阜県	54,214	53,894	99.4	-	-	-	-	53,894	99.4
22 静岡県	92,935	90,088	96.9	312	0.3	1,061	1.1	91,461	98.4
23 愛知県	196,080	170,932	87.2	-	-	23,905	12.2	194,837	99.4
24 三重県	45,889	32,626	71.1	-	-	1,639	3.6	34,265	74.7
25 滋賀県	38,952	21,378	54.9	278	0.7	885	2.3	22,541	57.9
26 京都府	56,980	21,464	37.7	-	-	114	0.2	21,578	37.9
27 大阪府	203,501	162,219	79.7	287	0.1	-	-	162,506	79.9
28 兵庫県	132,577	80,232	60.5	36	0.0	4,268	3.2	84,536	63.8
29 奈良県	31,903	30,752	96.4	-	-	199	0.6	30,951	97.0
30 和歌山県	21,776	14,334	65.8	-	-	-	-	14,334	65.8
31 鳥取県	14,346	14,282	99.6	-	-	-	-	14,282	99.6
32 島根県	16,910	16,847	99.6	-	-	-	-	16,847	99.6
33 岡山県	48,374	46,966	97.1	-	-	932	1.9	47,898	99.0
34 広島県	66,534	38,919	58.5	595	0.9	4,732	7.1	44,246	66.5
35 山口県	32,591	32,292	99.1	-	-	-	-	32,292	99.1
36 徳島県	17,684	17,605	99.6	-	-	-	-	17,605	99.6
37 香川県	24,775	24,658	99.5	-	-	-	-	24,658	99.5
38 愛媛県	32,543	32,443	99.7	-	-	-	-	32,443	99.7
39 高知県	13,886	7,608	54.8	-	-	1,115	8.0	8,723	62.8
40 福岡県	126,285	116,336	92.1	-	-	7,864	6.2	124,200	98.3
41 佐賀県	21,495	12,119	56.4	445	2.1	8,708	40.5	21,272	99.0
42 長崎県	34,204	30,599	89.5	-	-	2,505	7.3	33,104	96.8
43 熊本県	46,335	45,502	98.2	-	-	-	-	45,502	98.2
44 大分県	28,144	27,615	98.1	-	-	351	1.2	27,966	99.4
45 宮崎県	27,786	27,228	98.0	-	-	-	-	27,228	98.0
46 鹿児島県	42,879	42,465	99.0	-	-	-	-	42,465	99.0
47 沖縄県	45,471	44,943	98.8	-	-	-	-	44,943	98.8
計	2,985,135	2,546,365	85.3	7,448	0.2	97,863	3.3	2,651,676	88.8

中学校給食に関するアンケート調査結果の概要

令和4年(2022年)8月 枚方市教育委員会

1. 調査概要

調査趣旨	平成28年4月に選択制の中学校給食の提供を開始し、6年が経過した中で、生徒にとって相応しい中学校給食の今後のあり方について検討を進めるうえでの参考とするため
調査期間	令和4年7月8日(金)～7月21日(木)
対象者	市立小学校3年生から6年生及び市立中学校全生徒とそれぞれの保護者
調査方法	保護者へ「アンケートのお知らせ」を配付し、そのお知らせに添付のQRコードまたはURLから保護者及び児童生徒が回答する
回収率	中学校 保護者 1,673人(回収率:16.5%) / 生徒 955人(回収率:9.4%) 小学校 保護者 3,732人(回収率:27.8%) / 児童 3,632人(回収率:27.1%)

※保護者の回収率:1人の子どもに対し1人の保護者が回答したとして積算

2. 調査結果

(A) 中学生の保護者及び生徒に対するアンケート結果について

1. 給食の選択について

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①給食を選択している(選択しようと思う)	51.1%
②給食を選択していたが今は選択していない	7.5%
③弁当やパンなどを持参させている	41.2%
④その他	0.2%

※その他の回答内容

・給食とお弁当とを併用している ・夏場のみ給食を選択している など

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①給食を選択している	58.5%
②給食を選択していたが今は選択していない	6.2%
③弁当やパンなどを持参している	34.7%
④その他	0.6%

※その他の回答内容

・給食を選択するときもあるし弁当の時もある ・月によって変えている など

上記の結果より、保護者は「給食を選択している(選択しようと思う)」が51.1%、中学校生徒は「給食を選択している」が58.5%となっており、本アンケートに回答した保護者及び中学校生徒の約半数が現在中学校給食を選択していると考えられ、回答項目②の回答率から、給食を食べたことのある場合は、継続的に給食を申し込んでいることが多いことがわかりました。また、その他の回答では、「お弁当が傷みやすい夏場は給食にしている」、「月により、弁当か給食かを選択している」という意見が多くみられました。

2. 給食を選択している理由または給食の良いところについて (質問1で①を選択した場合に回答)

※ 複数回答あり

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①仕事で弁当の用意が難しいので助かる	62.0%
②家庭での献立づくりの負担が軽減される	62.6%
③栄養のバランスがとれる	75.1%
④好き嫌いを直すきっかけになる	19.6%
⑤子どもの荷物が減る	48.3%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	52.8%
⑦食への関心や知識を得られる	16.9%
⑧安くて経済的	27.6%
⑨良い点はない	0.2%
⑩その他	3.5%

※その他の回答内容

- ・夏場は食中毒の心配がない
- ・夏場は冷たく冬場は温かいものが食べられる
- ・美味しいと子供が言うので
- ・栄養面がよい
- ・就学援助を受けているため

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①おいしいと思う	41.7%
②家庭での弁当づくりの負担が軽減される	73.6%
③栄養のバランスがとれる	56.7%
④食への関心や知識を得られる	12.1%
⑤好き嫌いを直すきっかけになる	11.2%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	36.6%
⑦弁当をもっていなくてよい(荷物が減る)	61.6%
⑧安くて経済的	28.7%
⑨よい点はない	3.6%
⑩その他	6.3%

※その他の回答内容

- ・弁当は冷たいけど、給食は温かい
- ・兄弟が弁当だから
- ・親が選んだから
- ・親が大変だから
- ・お母さんが楽になる
- ・外国の料理がたまに出る
- ・温かいご飯が食べられる
- ・中学校の間でしか食べられないから
- ・おいしいから など

「給食を選択している理由または給食の良いところ」として、保護者は「栄養バランスが取れる」が75.1%と最も多く、次いで、「家庭での献立づくりの負担が軽減される(62.6%)」「仕事で弁当の用意が難しいので助かる(62.0%)」、中学校生徒は「家庭での弁当づくりの負担が軽減される」が73.6%で最も多く、次いで、「荷物が減る(61.6%)」や「栄養バランスが取れる(56.7%)」という結果となりました。

この結果から、保護者では、栄養バランスを考えた献立づくりや仕事もある中での弁当作りが大変だと感じており、中学校生徒では、親の負担軽減として給食を選択している傾向がみられました。

3. 中学校給食を選択していない理由または給食の良くないところについて（質問1で②③を選択した場合に回答）

※複数回答あり

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①子どもが給食を嫌がる	77.4%
②家でつくった弁当の方がよい	27.3%
③パンなどを購入する方がよい	1.9%
④献立に変化がない	1.6%
⑤子どもが嫌いな食べ物が多い	13.4%
⑥量が多い	13.9%
⑦量が少ない	2.3%
⑧給食費が高い	10.3%
⑨良くない点はない	4.8%
⑩その他	5.5%

※その他の回答内容

- ・小学校と同様の配膳形式にしてほしかった
- ・小学校の給食の方が美味しい
- ・子どもがお弁当がいいと言うから
- ・給食の子が少ないので嫌がる
- ・給食を取りに行くのが手間
- ・他の家族の弁当を作っているから
- ・体育の後、給食を取りに行き教室に戻ったら、食べる時間がない。
- ・予約方法が限定的、難しい
- ・美味しくない、牛乳が嫌い
- ・量が調節できない
- ・ランチボックスのため、おかずの味が混ざって美味しくない

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①おいしくないと思う	40.9%
②家でつくった弁当の方がよい	69.8%
③パンなどを購入する方がよい	8.8%
④気に入ったメニューがない	23.8%
⑤嫌いな食べ物が出てくる	36.3%
⑥量が多い・量が少ない	40.5%
⑦昼の時間がなくなる	18.3%
⑧給食費が高い	7.3%
⑨良くない点はない	13.1%
⑩その他	8.2%

※その他の回答内容

- ・家族みんなお弁当だから
- ・自分は給食がいいのに、お母さんがお弁当を作る
- ・自分で好きなものを選べる方がよいから
- ・ほかに給食を食べる生徒がいない
- ・美味しいと思うが見た目が美味しなさそうだし箱の色が食欲失せる
- ・配膳室までとりにいくのが面倒くさい
- ・みんなで給食の準備をしないので面倒
- ・とても熱くて食べられない
- ・匂いが独特
- ・同じランチボックスの中で隣のおかずに味がついてしまっている

「給食を選択していない理由または給食のよくないところ」として、保護者は「子どもが給食を嫌がる」が77.4%と最も多く、中学校生徒では「家でつくった弁当の方がよい」が69.8%、次いで、「おいしくないと思う(40.9%)」「量が多い・量が少ない(40.5%)」という結果となりました。

4. 中学校における昼食について

【中学校生徒の保護者】

回答項目	回答率
①全員を対象とした給食が望ましい(全員給食)	58.3%
②現行どおり給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい(選択制給食)	39.1%
③その他	2.6%

※その他の回答内容

- ・配膳形式で全員を対象にしてほしい
- ・選択できるのが一番だが、給食なら学校で作る給食にして欲しい
- ・一括で給食にしてほしいが給食に使える時間の配慮が必要
- ・全員対象にすれば給食費用も今よりも安くなるのではないかと思う
- ・小学校で給食だったのでほんとは抵抗ないはずですが、中学は作りたてではなく保温されて柔らかくなりすぎたものになっていると子どもが感じているので、そこを改善されれば全員給食でもいい
- ・給食費自己負担が軽減されるなら、全員給食が望ましい
- ・時代、風潮に合わせます
- ・どちらでもいい

【中学校生徒】

回答項目	回答率
①全員を対象とした給食が望ましい(全員給食)	13.3%
②現行どおり給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい(選択制給食)	82.8%
③その他	3.9%

※その他の回答内容

- ・小学校の方が断然美味しかった
- ・一人一人の好みでいいと思う
- ・小学校と同じ給食内容がいい
- ・全員お弁当がいい
- ・選択制でいいが小学校と同じメニュー

中学校における昼食として、保護者は「全員給食が望ましい」と半数以上の58.3%が回答しており、その他の回答においては、小学校給食と同様の方式での給食を望む意見や中学校での給食時間の配慮を求める意見もみられました。また、中学校生徒では、82.8%が「現行通りの選択制給食」と回答しており、保護者の意向とは異なる結果となりました。

4-(1). 全員給食が望ましい理由について (質問4で①を選択した場合に回答)

【中学校生徒の保護者】

主な意見
全員が給食だと子供が嫌がることなく、栄養面がしっかり考えられていて傷む心配をしなくてもいいから。
他県では中学生が給食なのは普通のこと。大阪は遅れてる。他の子が好きなものばかりのお弁当を食べているのを羨ましがるのが困る。

主な意見
選択できるようになっているので子供の希望でお弁当になってしまう。せっかく給食センターを建設してもらったのに、給食使用率をあげるためにも特別な理由がある場合以外は給食の一択で良いと思う。
全員給食になっていけば、弁当を作る負担がなくなるから
予約の必要がなく栄養面も安心できる
給食、持参のそれぞれにメリット・デメリットがあると思うので、給食に統一すれば全生徒同じ条件になる。食器類の片付け(食べたらず片付ける)なども教育のひとつになると思う。
個別にすると子供のわがままにつながる。 嫌いな物も食べないと成長するにつれて望ましくない
選択制だと子供が給食を選びたがらない。 ロコミで美味しくないなど、言われているせいか、小学生の時から、試食をしたこともないのに、中学のお弁当給食は絶対嫌だと言っていた。 (小学校の給食は好きだった。) 家で作るお弁当は好きなものを入れがちで、おかずもいつも似たようなものになりがち。栄養面で考えても、偏りがちになりやすいし、作る負担が大きいので、希望としては、全員を対象とした小学校のような給食を希望する。
母数が多い方がコスト面でも質があがりそう。また、ランチボックスを所定の場所へ個別に取りに行き、戻しに行くのに時間をとられ、昼食が十分に食べる時間が短いとのこと、皆同じスタートで食事がとれた方がいいかなとも考える。
義務教育であれば食育として全員給食にすべきだと思う
小学校6年間の給食では問題ないのであるから、そのまま延長して欲しい。量が不足する場合は各自持参して調整し、年齢に応じた栄養源を個人差の無いように提供することで、心と身体のバランスがとれたより良い教育が行えると思う。 また、給食センターの拡張等費用は掛かると思うが、地産地消、市内雇用拡大に繋がり地域の発展になる。
成長期に毎日栄養バランスのとれた昼食は作れないので
色々感謝がうまれるから。
隣接した市は、全員給食が当たり前で普通になっているから。
嫌いな食べ物にも続けて挑戦することで、苦手ではなくなると思う。みんながいれば、何とか頑張ろうと思うので。 温かい食事が出るのがいい!お弁当だと食中毒が心配。
全員の方が諦めがつく。嫌だと思っても、食べてみたら変わるとし、同じものを食べて会話をする大切さがあると思う。先生方の業務も軽減される。それが学校生活を過ごすという事においていい環境だと思うから。
お昼ご飯を食べてない子がいたり、菓子パンだけだったりの子がいるらしく、他人の子供ではあるが、成長期の子供に栄養バランスがとれない食事はどうなのか?と思う。
選択肢があるから親への負担が増える。 子供も周りに給食の人がいないと食べたくないという。 決めてくれていた方が子供への説得の負担も減るしみんな同じという安心感も子供に与えられる。
全員がきちんと栄養を摂取できる環境。小学校のように自動引き落して、みんなが同じ給食を食べれる環境が好ましい。
家庭環境により、十分な食事が持参できない方もいるため。
他の市は全員なのに、なぜ枚方は選択制なのかわからない

【中学校生徒】

主な意見
みんなで同じ物を食べている方がいい。家庭間の格差がない。
家の人がお弁当をつくるのが大変だから
本当は給食を食べたいから。
みんな平等だから。
みんな同じがいい
栄養がたくさん取れるし、好き嫌いを直すきっかけとなるため
小学校の給食の方が美味しいから
ご飯だけでなくおかずのおかわりができる
お弁当の人が持ってくるものを忘れた時に食べるものがないということにはならなくなるし、給食の方が温かいものを食べられるから。
美味しいかわからなくて、なかなか給食にできないから
みんなで同じものを食べると楽しいから
みんなで一緒に食べたい
統一感が増えてみんなとの仲が深まるから。
全員で当番を回すため、負担が減るから。

4-(2). 選択制が望ましい理由について

(質問4で②を選択した場合に回答)

【中学校生徒の保護者】

主な意見
量の調整が出来、好きな物も入れてあげられる
それぞれの家庭の事情によって選べたら有り難い
生徒一人ひとり食べる量も違うし、給食が嫌だと言う子もいる
お弁当を作ってあげたい、お弁当も親子のコミュニケーションの1つ
給食費が高い
好き嫌いのある子に給食を食べさせて残したりしたら給食を作ってくださいている方たちに申し訳ないと思うから。
小学校給食に比べて、美味しくない子どもから聞いている
好きなものを食べることで気持ちがりフレッシュできると思う
給食を選択している身としては、もっと給食の人数が増えて一人当たりの負担金額が減るとありがたい。ただ、各ご家庭の事情も配慮し、強制することは慎重になるべきかと思う。もし全員給食にするなら、無料もしくは小学校くらいの金額に減額するべきかとも思う。
少ない時間で食べれる量に個人差があるから。
特にないが 今で満足だから
アレルギーがあるため
好きなものを選べる方がいいから
給食は栄養バランスがとれているとは思いますが、量や味等合わないものをムリして食べるのは良くないと思う。
強制する必要はないと思う
給食費の負担を無くしたいから

【中学校生徒】

主な意見
給食よりお弁当の方が美味しいからお弁当にする子もいるし、親の都合でお弁当が良くても給食にしないといけない子など、自分の好きなものを食べたりできた方が嬉しいから
アレルギーなどで食べられない子もいるため、自宅で作った弁当のほうが良いと言う人もいるし、もともと食が細くて給食が多いと言う子もいるから
全員給食だと残す人が多くなり、食品ロスが増えるから。
給食が嫌な人、給食が良い人、両方が納得できると思うから
給食がおいしくないから
体調や自分の食べる量によって調節することができるから
給食だけよりも、その他お弁当とかを持参できる方が一人一人選べることができていると思うから。また、給食は小学校の時のものが味に慣れていたりするので、どちらかという小学校の給食が良い、食べたい。
家庭の事情
月に6600円ほど払うより各家庭で作っている方が弁当などの方がいいという方にとっては、そっちの方が良いのではないかと思ったから
自分の好きな物が食べたい
お母さんが作ってくれるお弁当が好きだから
当番の人が重くて大変になる
・もしアレルギーがたくさんある子がいたら、その子はみんなは同じものを食べているのに1人だけ違うものという気持ちが湧き上がってしまうかもしれないから。でも選択できたら、必ず1人ではない
・家庭の金銭面 もし、ある家庭が貧乏として給食費は高い!!となった時、お弁当を作った方が安く済むなら、そっちの方が家庭に優しいのかなと思う
・食品ロス 必ずしも全員が給食を小盛りにしたとて、食べ切れるとは限らない。 だからこそ、自分に合った量で持って来れるお弁当にすることでロスを削減する。
それぞれ個人の自由でいいと思うから。
給食の量が多いとか嫌いな物が多いとかの理由で給食を残してしまう人は、お弁当にした方が環境に良いと思うし、残す時の罪悪感も無くなると思うし、逆に、「お弁当を作ってくれる人がいない」とか、「お弁当を作る時間が無い」などの理由で昼食が自分で用意できない人は給食の方が良いと思うから、選択制給食の方が良いと思った。
コロナが怖い人もいると思うし、給食が嫌いでお弁当やパンを持参している人もいるのに強制的に給食に変更されるのはおかしい。また、金銭的に給食を食べられない生徒もいるかもしれないから。
偏食などがあると、給食では十分にご飯を食べることができないから。

5. 給食費の負担者について

【保護者のみの質問】

回答項目	回答率
① 父	75.8%
② 母	13.8%
③ 祖父	0.1%
④ 祖母	0.1%
⑤ 他の家族や親せき	0.1%
⑥ 就学援助・生活保護を受けている	7.5%
⑦ その他	2.7%

※その他の回答内容

・給食を選択していない ・母子家庭の援助を受けている ・両親 ・家計から支出

6. 1日の食事回数について

【中学校生徒の保護者】(子どもの食事について回答)

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	96.1%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	3.7%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.1%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.1%
⑤ 一日1食のみ	0%

【中学校生徒】

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	92.9%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	6.4%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.1%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.2%
⑤ 一日1食のみ	0.3%

中学校生徒の1日の食事回数については、「1日3回(朝・昼・晩)食べている」が92.9%でしたが、朝ごはんを食べていない中学校生徒が6.4%みられました。1日1食しか食べていない中学校生徒が0.3%いるのに対し、保護者では0%となっており、弁当や給食ではない中学校生徒が昼食を買わずに実は食べていないという可能性も考えられます。中学校生徒の②から⑤の回答から、全体の7%の中学校生徒が成長期における十分な栄養摂取ができていない可能性があることがわかりました。

※ 7. 今後の中学校給食に希望することについては、小学校アンケート以降にまとめて掲載

(B) 小学生の保護者及び児童に対するアンケート結果について

1. 中学生になった際の給食の選択について

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①給食を選択しようと思う	50.3%
②弁当やパンなどを持参させようと思う	17.3%
③わからない	29.0%
④その他	3.4%

※その他の回答内容

- ・給食と弁当を併用したい
- ・周りのお友達と合わせたい
- ・本人次第
- ・子供が弁当を希望している
- ・夏場だけ給食利用
- ・給食の内容、量、費用など検討してから決めたい
- ・給食にしたいが子供は弁当がいいという。選択制ではなく給食のみにしてほしい
- ・小学校のように全員が給食にして欲しい
- ・中学校の給食が美味くなったら給食にしたい など

【小学校児童】

回答項目	回答率
①給食を食べたい	28.7%
②弁当やパンなどをもって行って食べたい	44.7%
③わからない	24.1%
④その他	2.5%

※その他の回答内容

- ・一度だけ食べてみたい
- ・どちらも食べたい
- ・給食が作りたてだったら食べたい
- ・試食して美味しかったら給食がいい
- ・お母さんと考える。給食だと時間以内に食べられるか分からないから
- ・小学生の時(今)と同じ給食なら絶対食べたい。違うなら味によって決める
- ・お母さんは給食にして欲しいと言っている
- ・弁当の日もあれば、給食の日もある感じがいい など

中学生になった際の給食の選択について、小学校児童の保護者は「給食を選択しようと思う」が50.3%で、約半数の小学校児童の保護者が中学校での給食を希望しているのに対し、小学校児童では「弁当やパンなどをもって行って食べたい」が44.7%と、「中学生になったら給食より弁当がよい」と考える小学校児童が多いことがわかりました。また、保護者、児童ともに20%以上が「わからない」という回答でした。

2. 学校給食の良い点について

※ 複数回答あり

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①仕事で弁当の用意が難しいので助かる	61.9%
②家庭での献立づくりの負担が軽減される	65.3%
③栄養のバランスがとれる	85.4%
④好き嫌いを直すきっかけになる	31.3%
⑤子どもの荷物が減る	56.9%
⑥家庭で食べることがないメニューがある	64.5%
⑦食への関心や知識を得られる	21.1%
⑧安くて経済的	28.9%
⑨良い点はない	1.4%
⑩その他	3.4%

※その他の回答内容

- ・夏場などお弁当が傷みやすい時季は衛生面で安心
- ・同じものを協力して配膳して食べることで食育だと思える
- ・家庭での差がなく、全員が栄養をとれるので、給食は大事だと思える
- ・国産の食品で安心できる
- ・ひとり親等の負担軽減
- ・中学校時代給食を提供してくれている地域で育ったが、メリットしかなかった
- ・あたたかいものを食べられる
- ・色々な味付けを知ることが出来る
- など

【小学校児童】

回答項目	回答率
①おいしいと思う	66.7%
②家での弁当づくりがいらなくなる	36.2%
③栄養のバランスがよい	64.8%
④すきらいをなおせる	24.9%
⑤みんなが同じものを食べることができる	34.3%
⑥家で食べることがないメニューがある	57.4%
⑦食べることをいろいろ知ることができる	21.9%
⑧弁当をもっていなくてもいい(にもつがへる)	35.0%
⑨よいところはない	5.9%
⑩その他	2.6%

※その他の回答内容

- ・みんなが給食について盛り上がる事ができる
- ・温かいものを温かいまま食べられる
- ・お母さんがお弁当を早く起きて作る必要がなくなる
- ・作り忘れることがない
- ・いろんな行事の食べ物を知ることができる
- ・おかわりがいっぱいできる
- ・給食で食べた物が美味しかったらお母さんが作ってくれて、ご飯のバリエーションが増える
- ・みんなのために、給食作ってくれるから、嬉しい!
- ・感謝ができる
- ・友達と楽しく食べられる

給食の良い点について、小学校児童の保護者は「栄養のバランスがとれる」が 85.4%で最も多く、次いで、「家庭での献立づくりの負担が軽減される(65.3%)」、「家庭で食べることがないメニューがある(64.5%)」、「仕事で弁当の用意が難しいので助かる(61.9%)」となっており、栄養面やバラエティー豊富なメニュー、日常の負担軽減において給食を評価していることがわかりました。

また、小学校児童が給食を良いとする点については、「おいしいと思う」が 66.7%、「栄養のバランスがよい」が 64.8%と、保護者同様、給食としてのおいしさや栄養面を評価していることがわかりました。

3. 学校給食のよくない点について

※ 複数回答あり

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①子どもが給食を嫌がる	25.8%
②家でつくった弁当の方がよい	5.9%
③パンなどを購入する方がよい	0.5%
④献立に変化がない	4.0%
⑤子どもが嫌いな食べ物が多い	11.3%
⑥量が多い	6.0%
⑦量が少ない	13.0%
⑧給食費が高い	14.3%
⑨良くない点はない	38.0%
⑩その他	12.0%

※その他の回答内容

- ・小学校の給食はすごく美味しいと言っているが中学の給食は美味しくないと聞いた
- ・子どもの食べる量に応じた量の差をつけられない(つけにくい)ところ
- ・中学のボックス型の弁当が美味しくない
- ・みんなが食べないと給食の引き取りや返却に時間を要する
- ・食物アレルギーがある
- ・お弁当を楽しみにしている
- ・ご飯の時も牛乳が出る
- ・頼む人が少ない
- ・選択制になっているところ
- ・全員が給食ではないから、友達から「作ってもらえないの」と聞かれてしまう
- ・お弁当を取りに行くのが苦痛。その間の友達との会話内に入れず、不安な面もあるらしい
- ・昼食時間にある場所まで給食を取りに行くのが面倒だから給食は嫌だと聞いた
- ・食べる量の調整ができない
- ・衛生環境がわからない
- ・全員給食ではない
- ・実際に利用していないのでわからない

【小学校児童】

回答項目	回答率
① おいしくないと思う	6.7%
②弁当やパンなどのほうがよい	16.9%
③気に入ったメニューがない	7.5%
④きれいな食べ物がでてくる	36.8%
⑤食べ残しができないように思う	11.7%
⑥小学校でもうあきた	6.7%
⑦昼休みの時間がなくなる	7.6%
⑧給食当番がいや	26.1%
⑨よくないところはない	41.4%
⑩その他	2.3%

※その他の回答内容

- ・食べる時間が少ない
- ・自分で給食の量を決められない
- ・アレルギーがあるから大変
- ・苦手な食べ物だと食べ終わるのが遅くなる

- ・食べたくないものもできるだけ頑張って食べないといけないから、お弁当の方がいい
- ・給食を作る人が一生懸命作っているのに残す人がいるから 調理員さんの労働時間が多いから
- ・選べるところ、全員給食になる事を願う
- ・中学校の給食は美味しくないと言っている

給食の良くない点について、小学校の保護者・児童ともに「良くない点はない」が最も多く、次いで、保護者では「子どもが給食を嫌がる(25.8%)」、小学校児童では、「きれいな食べ物がでてくる」が38.5%という結果となりました。

4. 中学校における昼食について

【小学校児童の保護者】

回答項目	回答率
①小学校と同じように全員を対象とした給食が望ましい (全員給食)	71.8%
②給食または弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい (選択制給食)	26.1%
③その他	2.1%

※その他の回答内容

- ・小学校と同じような形式で全員給食が望ましい
- ・味を美味しく、温かい給食が食べられるのであれば全員給食を選択する
- ・全員給食が望ましいが、食べる量の個人差が大きいため、追加持参も許可すべき
- ・週単位で選択出来ると助かる ・給食が不要 ・どちらでもよい
- ・給食でもお弁当でも統一するのがいい
- ・義務教育での全員給食なら、金銭的負担を減らすのが望ましい

【小学校児童】

回答項目	回答率
① 小学校と同じみんなで食べる給食がよい	45.8%
② 給食または弁当・パンなどをえらぶことができるのがよい	54.2%
③ その他	0%

中学校における昼食として、保護者は「全員給食が望ましい」と71.8%が回答しており、全員給食を望む声が高かったことがわかりました。

また、小学校児童では、「給食または弁当・パンなどをえらぶことができるのがよい」が54.2%で最も多い回答でしたが、「小学校と同じみんなで食べる給食がよい」と45.8%が回答しており、小学校給食と同じ給食を求める意見も多くみられました。

【小学校児童の保護者】

主な意見
お弁当か給食かと選択肢があるから嫌がると思うのです、選択肢を無くして欲しい。
選択肢があると、給食希望でも子供が周りに合わせたがる
親の負担が軽減されるため
子どもの栄養面を考えると給食の方がよいのは間違いないが、中学生という年代の特性から、友達と一緒にないと恥ずかしい(友達がお弁当なら、お弁当にしたい等)というだけで、お弁当を選ぶことがある。 経済的理由から給食を頼めない子どもがいる。(全員給食なら仕方がないと思う親も、選択制となると、安い価格であっても、購入するのを躊躇する親がいる。もっと安いパンとかで済ませてしまう。)
皆と同じものを食べることによって、話が共有できるし同じものを食べながらコミュニケーションがとれる
栄養の偏りの改善と現状周りの生徒が弁当だと頼みにくい。また、片付けなど給食を頼むものが少ないと申し込んだ者の負担が多くなる。現状給食後体育などの授業があるとその子たちだけが、片付けて遅れて注意を受けたりすることがあるので全員喫食でないと公平に授業を受けられない。 なぜ関東と同じように大阪でも全員喫食に出来ないのか疑問。
各家庭によつての差が出ないため
小学生まで全員を対象にしていたのに選択制にするのはおかしい。 全員が給食になれば、子供達も何の疑問も持たずに受け入れると思う。
栄養のバランスを考えてくれるから
子供はお弁当が喜ぶが残されるのは困るため、好きな食べ物の割合が多くなってしまい、栄養バランスが悪くなるため。給食だと親の負担も減り、梅雨や夏場の食中毒の危険性もなくなる
給食を取りに行ったりする手間がありその間に他にグループができ輪に入れないなど友人関係に問題ができると聞いている。それが心配。一刻も早い全員給食を望む。
配膳や片付けの役割分担の責任と同じ物を一緒に食べる事は、この先の人生に無い経験だと思うから
全員同じものを食べて、平等にするほうがいい

【小学校児童】

主な意見
みんなで同じものを食べると、ものすごく美味しいと思いながら食べることができると思うし、自分と嫌いなものが、一緒の子とも仲良くなって、ものすごく仲の良い友達になれると思うから。
みんなと違ったら、恥ずかしかったりするから
みんなと同じだと、安心する
栄養のバランスがとれた昼食を食べることができる
お母さんの負担が減るから
やっぱりそれぞれ家庭の事情があって買えない人もいるだろうし、人目が気になる子もいるとおもう
好き嫌いを少しでも減らせると思うから

主な意見
美味しく、たまらないぐらいまいから
いっしょに食べるともっとおいしいから
色々家で食べない食べ物や、郷土料理など美味しいものがたくさん出るから
栄養バランスが良い、友達と給食のことをたくさん話せるから
みんなで平等に食べたいから
食べた事が無いものが出来て楽しい

4-(2). 選択制が望ましい理由について (質問4で②を選択した場合に回答)

【小学校児童の保護者】

主な意見
様々な家庭事情があるため、臨機応変に選択できる方が良いと思うから
現状の運用で良いと思っているから
子どもがお弁当を望んでいるから
食べる量が各々違うため
苦手な食材が多いため
保護者にとって給食は、栄養バランスは魅力的ですが、その反面子供にとって魅力的かと言うと、残念ながら違うのかなと思う。中学生になると小学生の時とは違い、嫌いな物、苦手な物を残さず食べるという考えが薄くなり、給食を残してしまうことが出てくるような気がする。残さないよう家庭で指導したとしても、難しいと思う。 そうすると、エネルギー不足になるのではないかと心配。 多少栄養が偏ったとしても、しっかり食べ、午後の授業と部活を乗り切の方が私は大切だと考える。
体調や、部活動のスケジュールに合わせて調整できるから
給食費の軽減
本人が食べたいものをできるだけ食べさせたい
兄弟がいるためまとめてお弁当ができるため
アレルギーのある子や宗教的な問題で食べてはいけない物がある方に配慮出来ると思います

【小学校児童】

主な意見
自分の好きな食べ物が入れられるし自分で量を決められるから
給食が好きな人や、弁当が好きな人もいるから
給食は嫌いな食べ物が出た時、残しにくいと思うから
安心な食べ物を食べられるから
選ぶ方が気分が変わえられるから。
自分で食べれる量が調整できるから
お弁当が好きだから
自分でお弁当を作る練習もしたいし、給食ばかりだと飽きるから。
調理員さんの作る量も減るから働き方改革にもなるから
給食当番がない

5. 給食費の負担者について

【保護者のみの質問】

回答項目	回答率
① 父	79.8%
② 母	13.2%
③ 祖父	0%
④ 祖母	0.1%
⑤ 他の家族や親せき	0.1%
⑥ 就学援助・生活保護を受けている	6.4%
⑦ その他	0.5%

※その他の回答内容

・両親 ・家計から ・就学援助

6. 1日の食事回数について

【小学校児童の保護者】(子どもの食事について回答)

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩) 食べている	98.33%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	1.53%
③ 一日2食(昼ごはんは食べていない)	0.08%
④ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.03%
⑤ 一日1食のみ	0.03%

【小学校児童】

回答項目	回答率
① 一日3食(朝・昼・晩) 食べている	94.51%
② 一日2食(朝ごはんは食べていない)	4.43%
③ 一日2食(晩ごはんは食べていない)	0.53%
④ 一日1食のみ	0.53%

小学校児童の1日の食事回数については、「1日3回(朝・昼・晩) 食べている」が保護者で約98%、小学校児童で約95%でしたが、朝ごはんを食べていない小学校児童が4.5%程度みられ、保護者の③の回答から、休日に昼食を食べていない小学校児童もいることがわかりました。

また、晩御飯を食べていない場合や1日1食しか食べていない小学校児童も同じ割合でみられ、給食の実施のない日や朝や晩に欠食している場合があり、発育・発達期において十分な栄養摂取ができていない小学校児童がいることがわかりました。

7. 今後の中学校給食に希望すること

【中学校生徒の保護者】

主な意見
兄弟2人分の給食費負担が大きい。兄弟割があれば有り難い。
小学校と同じような給食にしてほしい。その方がコストも低いと思う
小学校同様の方式にして個々に応じた量の調整が出来るといいと思う
美味しい給食がいい
ご当地グルメを取り入れたり、海外のグルメなんかを取り入れたりして、見て楽しい、食べて美味しい食育をしていくと子供たちも喜ぶのではないか
もう少し家庭料理に近いものだといい
先入観や同調圧力からかもしれないので、給食にしても良いと思う家庭が増えるようお試しデー等してはどうでしょうか。
安全安心な全員給食を時間がかかっても実施してください
全額負担で、全員給食を希望
配膳先をもっと近場にして便利にして欲しい
中学校は小学校より給食時間が短く、委員会やクラブ・教室移動等昼休みも時間が取られる事が多い。給食だと準備片付けに時間がかかるので、食べる時間がより少なくなると子ども達から聞くので、もう少し余裕を持った時間設定をお願いしたい。
小中一貫給食希望
早く全員給食にしてほしい
給食は栄養面でもバランスが取れて良いとは思いますが、全員給食制ではなく子どもの希望によって選択できる制度を続けて欲しい
全員給食にしてほしい。給食を選ぶ子が少なくて、選んでいる子供が罪悪感や片身が狭くなる。
衛生面と添加物のない安全性を第一に栄養がある美味しいお料理をこれからも提供していただきたい。
全員給食のお弁当ではない、おかずごとに配膳する給食を希望。
一日置きの利用(月・水・金や火・木)でも申し込めるようになれば嬉しい。
全員給食になることで教員の方に負担ばかりを掛けるのではなく、シルバー人材や地域ボランティアなどを積極的に導入すれば良いと思う。これからの社会を支える少ない人材を大切に育てる事を念頭におき、これまでの既成概念にとらわれない新しい取組をどんどん取り入れて、より良い教育にして頂きたい。
何故、小学給食のようにおいしくできないのか？ 改善してほしい
物価の値上がりがあるが値段が上がらないように努力していただき感謝している。大変だとは思いますが美味しく栄養バランスを考えて頂くメニューを続けて欲しい。
お弁当でもよかったが、折角中学校給食を始められたのであればみんなが喜べるようにしてもらえたらと思う。
交野市の中学給食制度が羨ましい
野菜メニューが、どろどろになっていて、味も美味しくない、ほとんど残しているらしいので、美味しく提供してほしい。
出来立ては美味しくても、保温容器で、長時間熱が入った状態のせいではないかと推測している。子ども達が美味しく野菜を食べられるようにしてほしい。
義務教育までは全員給食がいいと思う。
小学校並の給食ならば喜んで食べると思う。
全員給食型にして欲しい。値段を下げて欲しい。出来れば無料がいい

<p>全面給食賛成派ですので可能な限り推し進めていただき近い将来は当たり前のようになってほしい。(後世の児童へ)</p> <p>また全面給食により家庭内の負担はもとより、給食業者の雇用にも繋がり少しでも景気回復の足掛かりにも期待したい。</p> <p>もちろん食品偽装問題や食中毒問題など業者にはいつもリスクがつきものですが、消費者の期待を裏切らない美味しい給食を目指して誠実な業者の学校給食を望みたい。</p>
<p>試食会で食べたときに小学校と違う味で給食を嫌がりお弁当にした。</p> <p>小学校と同じならまた食べたいと言っていた。働いているので給食にしてくれたら助かるし栄養バランスもいいので小学校で作って欲しい</p>
<p>申込み時には献立確認出来るのだから、月毎ではなく、日々に申込み出来るありがたい。</p> <p>良くないとは思いますが、やはり好き嫌いはある。その日の献立によっては、ほぼ食べずに残す日もあると子供から聞く。</p> <p>運動部なので、残した日は空腹でへろへろになって帰ってくる。</p> <p>フードロスの観点から、申込み時に献立を確認して申し込めるようには出来ないか？</p>
<p>中核都市の枚方なので是非子育てに注力して小学校の給食みたいな、原点に戻ったモデル都市になってほしいと願う。</p>
<p>小学校で配膳形式でできることがなぜ中学校でできないのかがわからない。</p> <p>元々全員を対象にしない前提でやるからこうなるのではないか。</p>

【中学校生徒】

主な意見
おかずの量も増やせるようにしてほしい
小学校と同じメニューにしてほしい
価格を安くすれば頼む人が増えるのではないかと思う
おかずの温度の幅を増やしてほしい。ものすごく熱いか冷たいかの二択しかないので、普通の温度も作って欲しい。味噌汁が熱すぎる。舌やけどするかと思った。あと、味が悪いものが結構多い。給食を教室まで運ぶのが大変。特におかずの箱。ものすごく手が痛くなる。もう少し持ちやすいケースにしてほしい。
各献立において量を自分で選べるようにしてほしい
食べられるものの上に食べられないものが乗っていることがあり、食べているのですが美味しくなく感じてしまう。
また、量が多すぎるという子もいるので、少量のものは少量を減らして欲しい。 (時間がなく残すことになってしまうため)
器を持つとかなり熱いので、できればそこも改善してほしい。
おかずとおかずが混ざったりして美味しくないと聞いたことがあるので、いっしょのお皿ではなくて、違うお皿にわけたほうがいいと思う。
見た目を彩ってください。茶色が多い。
おかずの汁もれやご飯の水滴もれが多々あるので改善されたら嬉しい。机がベタベタになってるのでそれが困っているの
小盛りのご飯を、もっと小盛りにして欲しい
おかずをもっと増やしてほしい
ご飯を3杯に増やしてほしい
今のままでいい
トレー(箱)の色を変えた方がいい
家ではなかなか食べられないものや、栄養バランスがしっかりと考えられたものが出てきて、とても良いなと感じている。でも、大おかずやおかずが熱すぎて、火傷をしそうになるこ

とがある。食中毒の観点などでよく火を通さなければならないことや、温かいものを提供できるようにしていることはわかるが、もう少し冷めた状態で出てくると嬉しい。
中学校も小学校の給食と同じにしたらいいと思う
部活動があるので懇談期間中は給食を出して欲しい
量をもう少し減らしてもいいと思う。(残している人がほとんどだから) その代わりに、おかわりシステムを作るか、足りない分の持参の許可を出してほしい。

【小学校児童の保護者】

主な意見
栄養バランスとあたたかいものだとありがたい
小学校と同じものがいい。とても良く考えられていて、子供も給食が大好きなので。
中学校の給食は美味しくないと聞きますが小学校のような美味しくてバランスのとれた給食だとすごくありがたい
無料にしてほしい
食材の安全性や調理工程についてとても気になるし心配なので、そこはきっちりしていただきたい。
小学校給食のように、作り立てを食べさせてあげたい。
小学校のようにみんなで同じものを食べてくれた方が、利用しやすい
子供たちが美味しくしっかりとした量の食事を取れる環境であればと思う
みんなで給食を食べられたら嬉しい
このままでいいと思う
是非、全員給食制度を実現していただきたい
栄養バランス、適切な量、温かい状態での提供
食べる事=生きる事だと思いますので美味しく食べられたものが身となるように願う
共働きの家庭がほとんど。家庭によりお弁当の内容も全然違う。敏感で難しい時期の子供たち、ぐんと成長する時期の子供たちです。全員が同じ美味しい、栄養のある給食を食べられるようにしてあげてください。枚方は遅れていると思う。ぜひ早く変えてください。
ランチボックスではなく小学校のような配膳だと、残すことに後ろめたさを感じないので、そちらなら給食を希望する
仕入れ先の衛生管理が徹底されている業者の食材を使用してください。 今年5月頃に鳩フンで問題になったお米は中学校では使用していないとのことでしたが、これからも使用しないで欲しい
小学校のような温かく量も調整できる美味しい給食
Aランチ、Bランチのように複数種類から選べるといい
複数のおかずの味がまざりあって美味しくないといい。容器の工夫をしてほしい。
全員一律で給食にしてほしい。弁当持参の夏場は衛生面が心配。 小学校と別メニューではなく、小学校と同じ給食で量を増やすだけで良い。子供も小学校と同じ給食なら給食が良いと言っている。
他の市では中学校給食が当たり前だったりするのに、なぜ枚方はまだそうになっていないのか不思議。
小学校の給食が子供は大好きなので、我が家は中学校も給食にしたいと思っている。給食のメニューも色々あると子供も毎日、喜ぶと思う

【小学校児童】

主な意見
小学校と同じにしてほしい
みんなで食べる給食が良い

給食の量を選べるようにしてほしい
小学校と同じようにバランスの良い食事が良い
食べられる量が選べたり、種類を選択出来たりすると嬉しい
具が混ざってぐちゃぐちゃになるのをやめてほしい
栄養バランスが良いものをできるだけたくさん出してほしい
給食当番をなくしてほしい
給食か、お弁当か、選べたらいいと思う
美味しく安全な給食にしてほしい
差別を無くして欲しい、みんなが公平な給食
これからもおいしい給食が食べたい
好きな人と食べれて、いろいろなメニューが選べるといいと思う
他府県の郷土料理や外国のご飯が出てきてほしい
この週は子供たちが考えた給食、この週は学校が決めた給食って分けてほしい

その他 (アンケート クロス集計)

●<質問1の回答ごとの児童生徒(学年別)>●

(質問1) 中学校給食を選択していますか(選択しようと思いますか)

質問1	学年	小学校(学年)				中学校(学年)		
		3	4	5	6	1	2	3
● 給食を選択している (選択しようと思っている)		279人	361人	149人	23人	224人	170人	159人
● 給食は選択していたが 今は選択していない		—	—	—	—	20人	26人	13人
● 弁当やパンを持参		256人	330人	438人	484人	144人	105人	80人
● わからない		149人	196人	251人	272人	—	—	—
● その他		23人	19人	19人	30人	6人	0人	0人

中学校では、本アンケートに回答した中学校生徒のうち、現在「給食を選択している」と回答した人数が最も多く、特に学年によって大きな差は見られませんでした。

小学校では、3、4年生で中学校へ行ったら「給食を選択しようと思っている」と回答した人数が多いのに対し、5、6年生では「弁当やパンを持参」と回答した人数がかなり多くなっており、学年が上がるにつれ、給食より弁当やパンを好む傾向にあることがわかりました。

●<質問1と質問4におけるクロス集計>●

(質問1) 中学校給食を選択していますか(選択しようと思いますか)

(質問4) 中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問1	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択している	保護者	54.6%	44.1%	1.3%
	生徒	17.9%	76.1%	6.0%
② 給食は選択していたが 今は選択していない	保護者	64.8%	31.2%	4.0%
	生徒	8.5%	88.1%	3.4%
③ 弁当やパンを持参	保護者	61.6%	34.6%	3.8%
	生徒	6.8%	92.9%	0.3%
④ その他	保護者	50.0%	50.0%	0%
	生徒	0%	100%	0%

【小学校】

質問I	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 給食を選択したい	保護者	75.3%	23.8%	0.9%
	児童	74.4%	25.6%	0%
② 弁当やパンを持参	保護者	61.9%	35.4%	2.7%
	児童	10.1%	89.9%	0%
③ わからない	保護者	72.2%	25.0%	2.8%
	児童	34.0%	66.0%	0%
④ その他	保護者	68.0%	23.4%	8.6%
	児童	24.7%	75.3%	0%

小学校・中学校ともに、中学校における給食の選択の有無に関わらず、保護者については「全員給食を望んでいる」という意見が最も多いことがわかりました。

また「中学校になったら給食を選択したい」と答えた小学校児童については、全員給食を望むという意見が多かったのに対し、質問Iでそれ以外の②～④を回答した場合は、選択制給食を望む意見が多くみられました。生徒においては、給食の選択の有無に関わらず、「選択制の給食を望む」という意見が非常に多い結果となりました。

●<質問1と質問5におけるクロス集計>●

(質問1)中学校給食を選択していますか(選択しようと思えますか)

(質問5)給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか

【中学校・保護者】

質問1 \ 質問5	回答者	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
		① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 給食を選択している	保護者	70.8%	17.2%	0%	0%	0.1%	11.5%	0.4%
② 給食は選択していたが今は選択していない		75.0%	17.0%	0%	0.8%	0%	4.0%	3.2%
③ 弁当やパンを持参		84.5%	9.0%	0.1%	0%	0%	3.2%	3.2%
④ その他		66.7%	16.7%	0%	0%	0%	16.7%	0%

【小学校・保護者】

質問1 \ 質問5	回答者	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
		① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 給食を選択したい	保護者	75.4%	15.7%	0%	0.1%	0.1%	7.8%	0.9%
② 弁当やパンを持参		85.4%	9.1%	0%	0.2%	0%	5.0%	0.3%
③ わからない		83.2%	11.4%	0%	0%	0%	5.0%	0.4%
④ その他		82.4%	13.0%	0%	0%	0%	3.8%	0.8%

給食の選択の有無に関わらず、給食費(昼食代)は父親が負担しているという回答がもっとも多く、次いで母親という結果となりました。また、質問1で「その他」を選択しているのは、中学校では、給食と弁当を併用している場合、小学校では、併用を考えている若しくは中学校給食を経験していないので食べてから決めるという場合でしたが、その場合においても給食の負担者については同様の結果でした。

そのほかとして、中学校で現在給食を選択している約1割が就学援助等を受給していると回答しています。また、小学校で現在就学援助等を受けている家庭では、中学校での昼食について、給食、弁当やパン、併用など、意見が分かれる結果となりました。

●<質問6(保護者)・質問5(児童・生徒)の回答数>●

(質問)児童・生徒の一日の食事回数について

質問	回答者	小学校		中学校	
		保護者	児童	保護者	生徒
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている		3,657人	3,413人	1,603人	882人
② 一日2食(朝は食べていない)		57人	160人	62人	61人
③ 一日2食(昼は食べていない)		3人	—	1人	1人
④ 一日2食(晩は食べていない)		1人	19人	1人	2人
⑤ 一日1食		1人	19人	0人	3人

保護者・児童・生徒いずれも「一日3食(朝・昼・晩)食べている」という回答が9割を超えています。
次に多いのは「一日2食(朝は食べていない)」という回答ですが、小学校の保護者の回答は57人ですが、小学校児童の回答からは160人が朝食を食べていないという結果となりました。この回答の中学校は、保護者が62人、中学校生徒が61人となっています。
また、「一日1食」と回答したのは、小学校の児童で19人、中学校の生徒で3人となっています。

●<質問6と質問5におけるクロス集計>●

(質問6)お子さんの一日の食事回数について

(質問5)給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか

【中学校・保護者】

質問6 \ 質問5	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
	① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	73.8%	13.4%	0%	0%	0.06%	7.2%	5.6%
② 一日2食(朝は食べていない)	69.4%	12.9%	1.6%	1.6%	0%	11.3%	3.2%
③ 一日2食(昼は食べていない)	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
⑤ 一日1食	—	—	—	—	—	—	—

【小学校・保護者】

質問6 \ 質問5	給食費を負担しているのは主にお子さんからみてどなたですか						
	① 父	② 母	③ 祖父	④ 祖母	⑤ 親戚など	⑥ 就学援助	⑦ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	79.8%	13.0%	0%	0.05%	0.03%	6.2%	0.9%
② 一日2食(朝は食べていない)	59.6%	22.8%	0%	0%	0%	17.5%	0%
③ 一日2食(昼は食べていない)	66.7%	0%	0%	0%	0%	33.3%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
⑤ 一日1食	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%

児童・生徒が「一日3食(朝・昼・晩)食べている」「一日2食(朝は食べていない)」の回答では、小学校、中学校ともに給食費(昼食代)は父親が負担しているという回答がもっとも多く、次いで母親、次に就学援助等を受けているという結果となりました。

●<質問6(保護者)・質問5(児童・生徒)と質問4におけるクロス集計>●

(質問6・5) 児童・生徒の一日の食事回数について

(質問4)中学校の昼食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください。

【中学校】

質問6・5 \ 質問4	回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	保護者	59.4%	39.0%	1.6%
	生徒	13.4%	82.7%	3.9%
② 一日2食(朝は食べていない)	保護者	51.6%	46.8%	1.6%
	生徒	8.2%	85.2%	6.6%
③ 一日2食(昼は食べていない)	保護者	100%	0%	0%
	生徒	0%	100%	0%
④ 一日2食(晩は食べていない)	保護者	100%	0%	0%
	生徒	100%	0%	0%
⑤ 一日1食	保護者	—	—	—
	生徒	33.3%	33.3%	33.3%

【小学校】

質問I	質問4 回答者	中学校の昼食について、あなたの意見に近いものは		
		① 全員給食	② 選択制	③ その他
① 一日3食(朝・昼・晩)食べている	保護者	71.8%	26.1%	2.1%
	児童	34.4%	64.3%	1.2%
② 一日2食(朝は食べていない)	保護者	68.4%	26.3%	5.3%
	児童	26.3%	72.5%	1.3%
③ 一日2食(昼は食べていない)	保護者	33.3%	66.7%	0%
	児童	—	—	—
④ 一日2食(晩は食べていない)	保護者	0%	100%	0%
	児童	36.8%	63.2%	0%
⑤ 一日1食	保護者	100%	0%	0%
	児童	31.5%	57.9%	10.5%

中学校の保護者については「全員給食を望んでいる」回答が最も多いことがわかります。また、小学校の保護者でも「一日3食(朝・昼・晩)食べている」「一日2食(朝は食べていない)」では「全員給食を望んでいる」回答が最も多くなっています。しかし、少数ながら小学校の保護者で、小学校児童が全員給食であるにもかかわらず、「一日2食(昼は食べていない)」といった回答がみられました。

小学校児童・中学校生徒の回答は、ほとんどが「全員給食」を「選択制」が上回りました。「全員給食」と「選択制」の回答率は、中学校生徒で概ね8:2、小学校児童で概ね7:3となっています。

学校給食調理場の種別比較

	センター方式	民間調理場活用方式	自校方式	親子方式
内容				
	給食調理場(共同調理場)で調理した給食を複数の学校へ配送する方式	民間事業者に市が調理(民間工場)・配送・配膳などの業務を委託する方式	学校敷地内の調理場(単独調理場)で調理した給食を当該校に提供する方式	学校(親)敷地内の調理場で調理した給食を当該学校に提供するとともに近隣学校(子)に配送する方式
利点	<ul style="list-style-type: none"> ・自校方式の調理場より厨房機器などの施設が充実 ・集中的な衛生管理ができる ・一括納品が可能で食材ロスの削減につながる ・調理場は市内または近隣立地 ・突発的な対応や変更が可能 ・防災機能の導入が可能 ・市が食材選定・献立立案を主導的にできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備等の初期費用が不要 ・他の自治体での事例が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自色が出しやすい ・配送が不要なため給食の適温管理ができる ・学校と一体的な活動が可能 ・調理員と生徒の交流や感謝の気持ちを育むことができる ・万一食中毒が発生した場合の被害拡大は(4方式中)最小限に抑えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自色が比較的出しやすい ・配送に時間を要しないため給食の適温管理ができる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校における個々の対応の調整が必要 ・万一の事故発生時のバックアップ体制の必要あり ・新たに整備する場合は用地確保、時間・費用が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材や調理員の管理等に市が関与しにくい(市が食材選定・献立立案を主導的にしにくい) ・突発的な対応や変更が困難 ・調理業務に係る費用負担(調理委託など)は大 ・調理場の立地が近隣ではないため調理後の配送に時間がかかるなどのリスクが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに整備する場合は学校敷地であるため建設に相応な時間・費用が必要 ・施設維持管理の費用負担 ・学校敷地内での用地確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・各調理場において人員の確保が必要 ・親の学校と子の学校の献立などを統一させる必要 ・施設維持管理の費用負担 ・学校敷地内での用地確保 ・建築基準法の用途規制
特記事項	初期費用を抑える建設の手法などに検討が必要(資金調達及び整備手法:PFI・DB等の手法、交付金など)	民間工場では現行のランチボックス方式での提供は困難	市内学校において新たな用地確保は困難であり現実的ではない	市内学校において新たな用地確保は困難であり現実的ではない

今後の中学校給食に関する方針（素案） 1

枚方市の中学校給食の現状と課題について（総括）

中学校給食実施にあたっての検討経過

枚方市では、長らく中学校の昼食は弁当を持参することを基本としてきた。平成23年に大阪府の補助制度が創設されたことを踏まえ、平成25年3月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たに中学校給食を調理する給食センターを整備したうえで、平成28年度からはランチボックス方式による選択制給食を実施してきた。

H23.2月	小・中学生へアンケート調査
6月	大阪府中学校給食導入促進事業(補助制度)創設
7月	枚方市中学校給食検討委員会設置
11月	実施手法の検討
H24.1月	市民アンケート調査
2月	「選択制の共同調理場(ランチボックス)方式」選定
3月	大阪府へ中学校給食導入実施計画書 提出
H25.3月	中学校給食の実施手法等に関する方針 策定
H26~	共同調理場・配膳室等施設整備 開始
H27.6月	枚方市学校給食会に中学校給食委員会 設置
9月	全中学校での配膳室整備 完了
11月	第一学校給食共同調理場 竣工
H28.4月	全市立中学校で選択制・ランチボックス方式の給食スタート

喫食率

【喫食率の推移】

(単位:%)

年度	H28	H29	H30	R元	R2	R3
喫食率	24.3	31.6	32.7	33.4	33.8	35.1

【喫食率向上の取り組み】

平成28年度からランチボックス・選択制給食を実施し、喫食率50%をめざした給食の魅力・利便性向上の取り組みを進める

〈魅力の向上〉

- ・フルカラー献立表の全生徒・教職員への配布
- ・全国の郷土料理や世界各国の料理を献立に取り入れて提供
- ・ご飯の量の選択が可能

〈利便性の向上〉

- ・インターネット予約
- ・コンビニ・クレジットカード・自動口座振替による決済
- ・自動予約のWEB申請

〈PR・情報発信〉

- ・6年生を対象とした中学校給食試食会
- ・給食PR動画(DVD)
- ・学校・PTAとの連携強化

子どもたちの声・・・

ほかに給食を食べている生徒がいない

みんなで給食の準備をしないので面倒

今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方を検討

社会情勢の変化・・・

ランチボックス→食缶へ変更する自治体増

ランチボックス方式 コスト上昇

ランチボックス委託業者 減少

今後の中学校給食に関する方針（素案） 2

今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方

枚方市中学校給食あり方懇話会

有識者、PTA・小中学校の校長・栄養教諭のそれぞれの代表の合計9人で構成された「枚方市中学校給食あり方懇話会」を計5回開催し、幅広く意見を聴取した。

各委員から出された意見から、「ランチボックス方式は食事の量の調整が難しい」「選択制では食育が限定的」など現状の選択制では給食を選択する生徒の増加には限界があることが指摘される結果となった。また、成長期である中学生に必要となる「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見が多く示された。

【主な意見】

- 中学生に必要な栄養素を摂取できるのが学校給食
- 成長期に1日3食のうち1食でも給食を摂ることは意義がある
- 家庭の食生活をサポートするのが学校給食
- 中学生期は食生活の自立に向けた大切な時期
- ランチボックスは食缶方式に比べ残食が多い
- 成長、栄養、食育の観点から全員給食が良い
- 全員給食なら給食を活用した食育・学校教育としての食育を進めることができる
- 食育の推進の観点から食缶方式の全員給食が良い
- 個に応じた分量が提供できるうえ、食育の観点からも食缶方式が望ましい

児童・生徒・保護者へのアンケート調査

アンケート調査では、多くの保護者から「全員給食が望ましい」「栄養バランスがとれる」「弁当・献立づくりの負担が軽減される」といった回答があった。一方で、多くの中学生から「選択制給食が望ましい」「量が多い・少ない」などの意見があり、小学生の意見は、半数弱が「全員給食が望ましい」、半数強が「選択制給食が望ましい」との結果となった。また、児童生徒に共通している意見として、給食の良い点について「栄養バランスがとれる」といった意見、給食の良くない点について「嫌いな食べ物が出てくる」といった意見があった。一日の食事回数については、ほとんどの児童・生徒・保護者が「一日3食食べている」と回答している中で、小学校児童で19人、中学校生徒で3人が「一日1食」と回答している。

(単位:%)	保護者		生徒	
	中学	小学	中学	小学
全員給食が望ましい	58.3	71.8	13.3	45.8
選択制給食が望ましい	39.1	26.1	82.8	54.2

今後、生徒一人ひとりの健康・成長を支え、将来にわたって「食」への関心や理解を深めるための取り組みを進めていくことが求められている

懇話会で検討した以外の社会情勢の変化

・新型コロナウイルス
・ロシアのウクライナ侵攻
・災害

原油価格・物価高騰

家計負担の増加によって
弁当の量が減少する

十分な食事がとれない

全員給食

にすることによって

- ・左記の影響に左右されない
- ・学校給食が栄養補給のバックアップとなり得る

今後の中学校給食に関する方針（素案） 3

望ましい
栄養量の摂取

多様な食に
ふれる

食に関する
重要な教材

望ましい
食習慣の形成

食に関する
実践力

児童生徒の
食生活の改善

一日3食食べていない生徒
の中に給食を食べていな
い生徒の存在

給食だけでなく昼
食自体を食べてい
ない子どもがいる

コロナ禍による貧
困は、中学生の食
に大きな影響

全ての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、すべての生徒の健全な成長を支えていくために、
中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく

給食の提供方式等

センター方式

食缶方式

配膳室整備

1食330円

完全給食

食物アレル
ギー対応

調理場の整備

第一学校給食共同調理場：6,000食/日
新たな給食センター：6,000食/日

↓
PPP/PFI手法導入を優先的に検討

【センター方式の採用について】

- ・集中的な衛生管理及び高度な衛生管理体制
- ・整備期間・コストを大幅圧縮
- ・厨房機器などの設備の充実
- ・一括納品が可能（食品ロスの削減）
- ・市内または近隣立地のため配送に時間がかからない（低リスク）
- ・突発的な対応や変更が可能
- ・防災機能の導入が可能
- ・食材選定・献立立案を市が主導的に実施可能

実施に向けた取り組み

安全・安心

食育の推進

経済的に困難
を抱える家庭に
対する支援

栄養・健康

学校における対応

今後の中学校給食に関する方針（素案） 4

今後の予定（年次スケジュール）

年度	概	要
令和4年度	8月 今後の中学校給食に関する方針（素案）作成 PPP/PFI手法・整備用地等の検討 9月 パブリックコメントの実施（今後の中学校給食に関する方針（素案）） 今後の中学校給食に関する方針（案）作成 12月 今後の中学校給食に関する方針 策定 実施計画等の策定 PFI事業の可能性調査に係る債務負担行為の設定 提案（12月議会）	
令和5年度	【PFI事業（新調理場）】 4月 可能性調査の実施	【中学校・第一学校給食共同調理場】 4月 配膳室調査・各学校調整 先行導入校での全員給食実施に向けた調整 11月 第一学校給食調理場調理配送等委託(R6.8)
令和6年度	5月 事業者選定 6月 新調理場 設計・建設	6月 第一学校給食共同調理場 設計・改修 10月 配膳室設計
令和7年度	12月 開設準備	7月 配膳室改修 開設準備 8月 先行導入校で全員給食 実施
令和8年度	4月 または 8月 全員給食の実施	

※実施月に変更となることがあります。

給食費の公会計化について

文部科学省「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」では、教員の業務負担の軽減のため、給食費を地方公共団体の会計に組み入れる「公会計制度」を採用し、保護者からの学校給食費の徴収・管理業務を地方公共団体が自らの業務として行うことが適切であると示されている。

公会計とすることで、新型コロナウイルスを含む災害時には、臨時的に保護者から給食費の徴収が困難となった状況でも、持続的に学校給食の提供が可能となる。

今後、先行導入されている自治体の事例研究などに取り組みながら、様々な課題を検討していく。



第2回 枚方市教育委員会臨時会 会議録									
開会		令和4年8月9日午前10時30分		閉会		令和4年8月9日午前11時47分			
日程		議案番号		案 件		結果			
1		報告第9号		臨時代理事項の報告について (1) 職員の人事異動について		承認			
2		議案第5号		今後の中学校給食に関する方針(素案)について		可決			
構 成 員	教 育 長		尾川 正洋		構 成 員	教 育 委 員		近藤 孝	
	教 育 委 員		谷元 紀之			教 育 委 員		中西 悠子	
	教 育 委 員		橋野 陽子						
説 明 員	副 教 育 長		岩谷 誠		説 明 員	おいしい給食課長		小林 弘人	
	総 合 教 育 部 長		新内 昌子			教 育 指 導 課 長		井手内 太吾	
	学 校 教 育 部 長		位田 真由子		記 録	教育政策課課長代理		高松 健大	
	総 合 教 育 部 次 長		大西 佳則			傍聴の人数		0人	
	総 合 教 育 部 次 長 (新しい学校づくり担当) 兼 学校教育部次長 兼 学校教育室長		高橋 孝之						

○尾川教育長 開会に先立ち、委員の出席状況について報告を求めます。新内総合教育部長。

○新内総合教育部長 委員の出席状況について報告します。

本日の会議の出席者は、全員出席です。

以上、報告を終わります。

○尾川教育長 報告のとおり、定足数に達しておりますので、ただいまから、令和4年第2回枚方市教育委員会臨時会を開会いたします。

次に、本臨時会の会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、会議規則第15条第2項の規定により、教育長において谷元委員を指名いたします。

なお、本日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員のマスク着用や空調と換気の併用、1時間ごとに5分程度の換気休憩などの対策を講じながら、進行させていただきます。

また、枚方市では、長崎に原爆が投下されました8月9日午前11時2分に、ニッパーク岡東中央公園の平和の鐘カリヨン（ヒラリヨン）を鳴らすとともに、市内小学校等にある防災行政無線からも平和の鐘を流し、1分間の黙祷を呼びかけております。本日11時2分に、黙祷の時間をとりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、日程1、報告第9号「臨時代理事項の報告について」を議題とします。新内総合教育部長。

○新内総合教育部長 報告第9号「臨時代理事項の報告について」ご説明いたします。

議案書1ページをご覧ください。

ご報告いたしますのは、教育委員会の権限に属する事務といたしまして、特に緊急を要すると認められましたため、教育長が臨時に代理したもので、教育長に委任する事務等に関する規則第3条第3項の規定により、教育委員会にご報告し、ご承認をお願いするものでございます。

議案書2ページをご覧ください。

報告は、ページ中ほどの「2. 臨時代理事項」にございます臨時代理第11号につきまして、ご説明いたします。

議案書3ページをご覧ください。

本件につきましては、教育長に委任する事務等に関する規則第3条第2項の規定により、令和4年7月29日付けで教育長が臨時代理したものでございます。「1. 臨時代理の内容」でございしますが、表に記載の職員1名について、令和4年8月1日付けで人事異動を行っております。以上、誠に簡単ではございますが、臨時代理第11号、「職員の人事異動について」の説明とさせていただきます。よろしくご審議の上、ご承認いただきますよう、お願ひいたします。

○尾川教育長 これから質疑にはいります。質疑はありますか。

質疑なしと認めます。

これから報告第9号を採決します。

本件は、承認することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○尾川教育長 ご異議なしと認めます。

よって本件は承認することに決しました。

続きまして、日程 2、議案第 5 号「今後の中学校給食に関する方針（素案）について」を議題とします。

今後の中学校給食に関する方針に関しては、7 月定例会の教育長報告でご報告したとおり、令和 3 年 11 月から令和 4 年 3 月まで 5 回にわたり、「枚方市中学校給食あり方懇話会」を開催し、ご意見を伺いました。その後、6 月定例会でご意見も聞きながら、7 月 8 日から 21 日まで市立小中学校の児童生徒及びその保護者を対象に「中学校給食に関するアンケート調査」を実施し、これらの結果を踏まえて、7 月 28 日、教育子育て委員協議会（所管事務調査）に、「今後の中学校給食に関する方針（素案）骨子」をお示しし、ご意見を伺ったところです。

本日は、これらの手続きを経て、教育委員会で協議した結果として、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていくため、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」をとりまとめましたので、ご議論をいただきたいと思えます。

それでは、議案について説明を求めます。新内総合教育部長。

○新内総合教育部長 ただいま上程いただきました、議案第 5 号「今後の中学校給食に関する方針（素案）について」、ご説明いたします。

議案書 5 ページをお開きください。

本件につきましては、教育長に委任する事務等に関する規則第 2 条第 1 項第 1 号の規定により教育委員会の議決を求めるものでございます。中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていくため、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」をとりまとめたものでございます。

議案書 6 ページをお開きください。

まず、「1. 施策等の背景・目的及び効果」ですが、今後の中学校給食の持続可能なあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、昨年 11 月に設置した、「枚方市中学校給食のあり方懇話会」において、有識者や P T A、学校関係者からいただいたご意見や、令和 4 年 7 月に実施した「中学校給食に関するアンケート調査」の結果等を踏まえ、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」を取りまとめましたので、報告するものです。

「2. 内容」につきましては、添付の別紙 1 の「今後の中学校給食に関する方針（素案）」について、概要をご説明いたします。

「(1) 枚方市の中学校給食の現状と課題について (1) - 1 枚方市の中学校給食の現状」では、①中学校給食実施にあたっての検討経過、7 ページに移りまして、②枚方市の中学校給食の特長、③喫食率の推移、④喫食率向上の取り組みを示しています。

「(1) - 2 枚方市の中学校給食の課題」では、喫食率が約 35% で推移する中、ランチボックス方式の持続可能性に課題が出てきていることなどを挙げ、現行の中学校給食のこれまでの総括を行っています。

次に、「(2) 今後の中学校にふさわしい給食についての基本的な考え方」として、「(2) - 1 これまでの検討経過」①「枚方市中学校給食あり方懇話会」では、「栄養・健康」「教育・食育」に関する意見や、「食缶方式」による「全員給食」で調理場は「センター方式」が望ましいという意見が多く出されました。

8 ページをご覧ください。

次に、②「児童・生徒・保護者へのアンケート調査」では、選択制の中学校給食を実施して 6

年が経過する中、児童・生徒・保護者を対象に「中学校給食に関するアンケート」調査を実施しました。アンケート期間は、7月8日から21日で、市立中学校全生徒及び市立小学校3年生から6年生児童とそれぞれの保護者を対象として実施しました。

回答数は、中学校保護者1,673人、生徒955人。小学校保護者3,732人、児童3,632人。保護者では、全員給食を望む回答が、中学校で約58%、小学校で約72%、選択制を望む回答が、中学校で約39%、小学校で約26%となっています。中学校生徒では、選択制を望む回答が約83%、全員給食を望む回答は約13%、小学校児童では、選択制を望む回答が約54%、全員給食を望む回答が約46%となっています。

9ページをご覧ください。

小学校、中学校ともに、中学校における給食の選択の有無に関わらず、保護者については「全員給食を望んでいる」という意見が最も多くなっています。

「中学生になったら給食を選択したい」と答えている小学生児童も「全員給食がよい」という意見が最も多い結果となった一方で、「給食を選択したい」と答えた以外の児童については、「選択制給食がよい」との意見が多くみられました。中学生については、給食の選択の有無にかかわらず、「選択制給食がよい」という意見が非常に多い結果となりました。アンケートの詳細については、添付の「中学校給食に関するアンケート調査結果の概要」をご参照いただきますようお願いいたします。

③懇話会で検討した以外の社会情勢の変化では、新型コロナウイルス感染症による原油価格高騰等への対応や災害時等における子どもたちの栄養確保のバックアップという面で、中学校給食を全員給食にすることが望ましいと考えています。

次に、「(2)-2今後の中学校給食にふさわしい給食についての基本的な考え方」としまして、全ての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、全ての生徒の健全な成長を支えていくために、大前提となる安全安心な給食の提供を継承しつつ、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく必要があることを示しています。

10ページをお開きください。

次に「(3)給食の提供方式等」について、①～⑥までお示ししています。提供方式は食缶方式で、完全給食の献立とし、食物アレルギー対応を行うとともに、センター方式を採用の上、調理施設を整備することとします。給食費は現行の1食330円と想定しており、公会計化についても検討していく旨を示しています。

次のページをご覧ください。

次に、「(4)実施に向けた取り組み」では、①安全安心では、学校給食衛生管理基準やHACCP（ハサップ）などに基づき、徹底した衛生管理を行うものとします。その他、②から⑤まで、ご覧のと通りの取り組みを進める考えです。

12ページをご覧ください。

次に、「(5)調理場の整備等」です。①センター方式での整備を行います。③給食センターの整備手法では、第一学校給食共同調理場の一部改修を行うとともに、新たな給食センターを整備するにあたり、PFI手法を優先的に検討します。④検討課題としましては、新たな給食センターの整備において、PFI手法の導入を検討するほか、第一学校給食共同調理場の改修中の選択制給食の代替措置や学校との調整などが挙げられます。

次に、「(6) 今後の予定」ですが、令和8年度に全員給食実施を検討しており、それまでの年次スケジュールをお示ししています。

13 ページをお開きください。

続きまして、「3. 今後の予定」といたしまして、本日8月9日の教育委員会臨時会において、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」を決定いただきたいと思いますと考えています。その上で、8月12日に予定している総合教育会議で市長と教育委員会の意見交換を行い、8月26日予定の教育子育て委員協議会において、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」を報告します。

9月のパブリックコメントを経て、10月の教育委員会において、「今後の中学校給食に関する方針（案）」を報告、11月の教育子育て委員協議会において、「今後の中学校給食に関する方針（案）」を報告、12月に「今後の中学校給食に関する方針」を策定します。

次の、「4. 総合計画等における根拠・位置付け」及び「5. 関係法令・条例等」につきましては、記載のとおりでございます。

「6. 事業費・財源及びコスト」ですが、事業費については、まだ庁内調整が整っておりませんので、あくまで概算でお示ししています。新たな共同調理場の整備をPFI手法で実施する場合の可能性調査委託料として、2,000万円を債務負担行為で12月補正に計上する予定です。ここでお示ししている以外の現時点における概算・試算ですが、現在の選択制3,800食規模でのランニングコスト約4.2億円に対し、全員給食12,000食のランニングコストは約7.9億円と想定しています。予算につきましては、特定財源の活用も視野に入れて、特に中学校の全員給食に必要な経費については、今後さらに、財政担当とも調整してまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、議案第5号の説明とさせていただきます。よろしくご審議のうえ、ご可決いただきますようお願い申し上げます。

○尾川教育長 それでは、質疑に入る前に、別紙1「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の7月28日の教育子育て委員協議会（所管事務調査）のときからの主な変更点を確認しておきたいと思います。小林おいしい給食課長。

○小林おいしい給食課長 主な変更点についてご説明申し上げます。

別紙1「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の1ページをご覧ください。

「■はじめに」におきまして、ページ中ほどに、「令和4年8月現在、府内43市町村のうち、全員給食の実施または移行決定が合わせて37市町村」という現在の大阪府内の状況を追記しております。また、別添資料の大阪府内の状況につきましても、これに併せて変更をしておりますので、後ほどご説明申し上げます。

次に、2ページでございます。

これまでの教育子育て委員協議会（所管事務調査）や教育委員の皆様からのご意見を踏まえまして、現状についての項目を追加しております。「1. 枚方市の中学校給食の現状と課題について 1-1. 枚方市の中学校給食の現状 (1) 中学校給食実施にあたっての検討経過」では、平成28年4月から開始している枚方市の中学校給食導入までの検討経過を記しております。この中では、全員給食と選択制、あるいは、共同調理場、民間調理場の活用など様々な検討を庁内委員会で進めてきたことを記しております。最終的には、重点項目を5つ掲げた上で、検討を行い、選択制のランチボックス方式の給食を採用し、平成28年4月から全校で開始した経過がございます。

「(2) 枚方市の中学校給食の特長」でございます。枚方市の中学校給食の特長といたしまして、温かい料理を温かい状態で、冷たい料理は冷たい状態で提供できること、基本食とアレルギー対応食の2種類を毎日提供できることがございます。

3ページをご覧ください。

「(3) 喫食率の推移」では、これまでの中学校給食の喫食率の推移を示しております。「● 喫食率(全体)」で申しますと、平成28年度開始当初の喫食率は24.3%であり、少しずつ喫食率は上昇しているものの、令和3年度、令和4年度は全体として35%前後で推移している現状でございます。そのほか、学年別、学校別でも、喫食率を示しております。

「(4) 喫食率向上の取り組み」を追記しております。これまで様々な取り組みを展開しておりますが、目標としている喫食率50%には至っておりません。

「1-2. 枚方市の中学校給食の課題」といたしまして、喫食率50%を目指しておりましたが、今回行いました中学校給食に関するアンケートによれば、現在の中学校給食のよくない点として、「ほかに給食を食べている生徒がいない」「みんなで給食の準備をしないので面倒」などといった理由で、給食を選択しない生徒が多く存在しております。令和4年7月現在で、喫食率は35%であり、依然として学校給食法第1条の目的を実現することが難しい状況となっております。また、大阪府内の自治体においても、ランチボックス方式から食缶方式に見直す方向性を打ち出している自治体が増えており、ランチボックス方式の需要の減少も手伝いまして、什器・保温カートなどのコスト上昇、受託業者が限られてくるなどといったランチボックス方式の実施における持続可能性に課題が出てきている状況もございます。こうしたことから、現行の選択制給食の安全安心な提供は継続させながら、並行して今後の中学校給食のあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方を検討する必要があると、このたび判断したものでございます。

7ページをご覧ください。

こちらは、第5回中学校給食のあり方懇話会で、令和4年3月時点の大阪府内の状況を資料として提出いたしましたが、状況が変わっておりますので、令和4年8月現在の分を追記しているものでございます。

11ページをご覧ください。

ページ上段「(3) 懇話会で検討した以外の社会情勢の変化」でございます。ここでは、給食を選択していない家庭における家計負担は増加することが想定される中、持参する弁当の量を減らすことなども想定され、成長著しい時期の中学生の発達を鑑みると、こうした影響に左右されないように、中学校給食を全員給食にすることが望ましいと考えます。こういった社会情勢の変化によって、中学校給食の全員給食が必要とされることを追記しております。

続きまして、12ページをご覧ください。

2段落目で、とりわけ、枚方市中学校給食あり方懇話会の委員からは、「給食だけでなく昼食自体を食べていない子どもがいる」「コロナ禍による貧困はなかなか見えてこないが、中学生の食に大きな影響が及んでいることが懸念される」などといった指摘がございまして、アンケートの結果からも、1日3食食べていない生徒の中に、給食を食べていない生徒が、多数ではないものの存在することが分かっております。枚方市の中学校の生徒が、誰一人取り残されることなく、1日1食でも栄養バランスのとれた食の確保ができる環境づくりが必要だと考えてお

り、こういった状況についても追記しております。

15ページをご覧ください。

「6. 今後の予定」といたしまして、今後の年次スケジュールを年度ごとに分けまして、実施月を追記しております。16ページでは、最終の全員給食の実施時期を、令和8年度の4月または8月開始としております。

19ページをご覧ください。

こちらは、先ほど申し上げました「大阪府内の中学校給食の実施状況」でございますが、令和5年の9月から、八尾市が、全員給食に移行するということがわかりましたので追記しております。また、堺市は、令和7年度から全員給食に移行することを既に決定されていますが、表の下の※3でございますとおり、堺市では、全員給食に移行するときに、食缶方式で実施することを決めておられます。堺市は、生徒数2万583人で、現在、枚方市と同様、保温カートで保温ランチボックスを配送されています。コストはかかりますが、温かいものは温かいままに、冷たいものは冷たいままに提供できるという特長をもって、これまで取り組みを進めてこられました。枚方市と同じ方式のランチボックス方式であった堺市が、食缶方式に移行されるという中で、今後ますます食缶方式の需要が広まっていき、ランチボックス方式の業者が限られてくることが懸念されます。

こういった状況もございまして、本市におきましても、全員給食の移行の際には、食缶方式という思いでおります。こういった事情もございまして、ご参考にご確認いただければと思います。

なお、表では、選択制給食から、全員給食に移行をされる市を網掛けしていますが、引き続き選択制給食を実施する市は、表の下のほうの、枚方市、吹田市、河内長野市、羽曳野市、守口市、富田林市の6市だけであることが確認できます。

以上、主な変更点の説明をさせていただきました。よろしく願いいたします。

○尾川教育長 アンケートのクロス集計が追加されているので、説明をお願いします。

○小林おいしい給食課長 41ページをご覧ください。

これ以降、クロス集計の結果を掲載しております。まず、「中学校給食を選択していますか」という設問に対するの回答と、「中学校の給食について、あなたの意見に近いものを1つ選んでください」という設問とのクロス集計でございます。

41ページ●<質問1と質問4におけるクロス集計>●をご覧ください。

○尾川教育長 いったん中断します。

(黙祷)

○尾川教育長 ありがとうございます。説明の再開をお願いします。

○小林おいしい給食課長 それでは、41ページをご覧ください。

まず「①中学校で給食を選択している」という回答のうち、保護者が「全員給食が望ましい」が54.6%、「選択制が望ましい」が44.1%、生徒でみますと、「全員給食が望ましい」が17.9%、「選択制がいい」が76.1%で、以降、「給食は選択していたが、今は選択していない」と「弁当やパンを持参している」という答えも保護者、生徒いずれも、先ほどの割合とほぼ近い状況で、いずれも保護者は「全員給食が望ましい」が高い率を占めております。生徒では、非常に全員給食を求める回答は少なく、「選択制がいい」という回答が圧倒的でした。

42ページをご覧ください。

こちらは、小学校でございます。小学校の保護者も、高い割合で全員給食を求めているということが分かりました。これは、「弁当やパンを持参したい」という保護者でも、61.9%が全員給食を求めているということになっています。

43ページをご覧ください。

こちらの●<質問1と質問5におけるクロス集計>●では、「(質問1) 中学校給食を選択していますか」と、「(質問5) 給食費を負担しているのは、主にお子さんから見てどなたですか」という質問でございます。中学校、小学校ともに、給食の選択をしている、していないにかかわらず、給食費、昼食代は父親が負担しているという回答が最も多いです。次いで母親という回答が多くなっています。

「(質問1) 中学校給食を選択していますか」において、「その他」を選択しているのは、中学校では給食と弁当を併用している、小学校では併用を考えている、もしくは中学校給食を経験していないので、食べてから決めるという場合でしたが、その場合においても、給食の負担者については、同様の結果でした。そのほかとして、現在中学校で給食を選択している約1割が、就学援助等を受給していると回答しております。また、小学校で現在就学援助等を受けているご家庭では、中学校での昼食について、給食、弁当やパン、併用など意見が分かれております。

44ページをお願いいたします。

こちらは、児童・生徒の1日の食事回数について表したものでございます。ほとんどの小学校、中学校において、保護者、児童生徒の回答、いずれをとりましても、1日3食、朝昼晩食べているということでございます。次いで、1日2食で、「朝は食べていない」というのが、少数ですが見られます。1日2食、「昼は食べていない」というのは、小学校では全員給食ですので該当しないのですが、「晩は食べていない」という答えも、ごく少数でございます。1日1食という保護者の回答、児童の回答、生徒の回答がございしますが、小学校で、1日1食の児童が19人、生徒では3人見られるという回答でございます。

45ページに移りまして、こちらは、「(質問6) お子さんの1日の食事回数について」と「(質問5) 給食費を負担しているのは、主にお子さんから見てどなたですか」という質問のクロス集計でございます。これにつきましても、児童生徒が、「1日3食食べている」もしくは、「1日2食(朝は食べていない)」との回答の中では、小学校、中学校共に給食費は父親が負担、次いで母親、その次に、就学援助等というような結果でございます。

次の「(質問6・5) 児童生徒の1日の食事回数について」と「(質問4) 中学校の昼食について、あなたの意見に一番近いものを選んでください」の回答におけるクロス集計でございます。表の、「一日2食(昼は食べていない)」あるいは、「一日2食(晩は食べていない)」「一日1食」というのは、母数が非常に低いので、分析するには難しい結果ではございますが、「一日3食」と、「一日2食(朝は食べていない)」というところでは、同じ傾向が見られまして、全員給食を求めるのは、保護者が高い率で回答しています。選択制を求めるのは、児童生徒であるという結果になっております。

次のページの小学校についても、同様の傾向でございます。

このクロス集計の結果を踏まえまして、素案の中にも反映をさせているところがございます。説明は以上です。

- 尾川教育長 それでは、これから質疑に入ります。質疑はございませんか。
- 近藤委員 枚方市が平成 28 年度からランチボックス方式による中学校給食を選択制とした経緯と課題についてあらためて確認します。
- 小林おいしい給食課長 平成 23 年に大阪府の補助制度いわゆる中学校給食導入促進事業が創設されたことを踏まえ、庁内委員会において中学校給食実施についての検討を開始したものでございます。平成 25 年 3 月には「中学校給食の実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性を示し、新たな給食センターとして第一学校給食共同調理場を整備し、平成 28 年度から選択制・ランチボックス方式の給食がスタートしました。
- 当時の検討の中では、まず 1 点目としまして、食育や学校運営などの観点からの検討では、給食の品質の観点から「対応でき特に課題がない」の項目が最も多く、学校運営への影響などについて、「対応できるが課題がある」の項目が最も少ないもの、次に、本市の財政状況からの検討では、将来的な財政負担を可能な限り抑制する観点から、ランニングコストが低額となるもの、続きまして、アンケート結果から、児童生徒や市民の意見を最も広く反映できるもの、4 点目に、本市における中学生の昼食の視点から、給食や家庭からの弁当などを選ぶことができるものについて、総合的に判断し、現在の選択制の共同調理場（ランチボックス方式）を選定したものでございます。
- 当時の方針として、「温かく栄養バランスのとれた安全で安心なおいしい給食を提供し、より多くの生徒が喜んで食することができる充実した中学校給食」の実現をめざし、喫食率については 50% を想定し、取り組んできたものでございます。
- 現在の選択制・ランチボックス方式の課題といたしましては、喫食率を高める取り組みを進めてきたものの現在約 35% で推移しており、学校給食法の目的を実現することが難しい状況であること、大阪府内の自治体の多くが全員給食を実施または移行決定していることなどの社会情勢の変化により、ランチボックス方式の持続可能性に課題が出てきていることなどが挙げられます。
- 近藤委員 課題としてあげられた中学校給食の喫食率が伸び悩んでいることについて、どのような理由が考えられるか、あらためて教えて下さい。
- 小林おいしい給食課長 中学校給食に関するアンケートによれば、現在の中学校給食の良くない点として「ほかに給食を食べている生徒がいない」「みんなで給食の準備をしないので面倒」「自分で好きなものを選べる方がよい」などといった理由で給食を選択しない生徒が多く存在していることが主な要因であると考えています。
- 近藤委員 大阪府内で選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体が増えている理由が分かればあらためて教えてください。
- 小林おいしい給食課長 来年度以降、大阪府内で選択制給食から全員給食に提供方法を見直す自治体は 4 市ありますが、いずれの自治体も「成長期にある中学生の心身の健全な発達・健康保持増進」「学校給食を活用した「食育」の推進をはじめとする教育的意義」など、学校給食法の目的・目標を達成するために、全員給食が必要とされています。
- 橋野委員 中学校に全員給食を導入すると、時間割の調整が必要となりますが、小学生の時は、食缶方式で慣れているので、配膳については問題ないと思います。他市も、食缶方式に移行されているとお伺いしています。食缶方式が食育の観点、また財政面から優位性があることにつ

いてあらためて教えてください。

- 小林おいしい給食課長 食缶方式には、「中学生にとってふさわしい給食」の実現に向け、ランチボックス方式に比べて食べ残しが少ない、個々の食べる量を調整できる、主食・おかず・汁物をそれぞれの器に盛り付けができる、配膳や後片付けにおける生徒同士の協力が生まれる、同じものを一緒に配膳して食べることによる「食」への関心が高まるなどといった食育の観点から、メリットがあると考えています。

また、ランチボックス方式では、その需要の減少から、食器やコンテナ、保温カートなどのコスト上昇、調理業務にあたる人件費相当分の委託料のコスト高、受託者が限られてくるなどといった課題があること、また、ランチボックス方式導入後に分かったこととして、同じ数の給食を作る場合には、食缶方式に比べ、作業時間が約2時間増加するとともに、配置人員が約6割増加するなど、必要経費についても食缶方式の方が割安であることが判明してきた状況です。

- 中西委員 今後、中学校で全員給食を進めていく上では、中学校での食育の推進が今まで以上に必要です。まず、中学校では、食育は教育課程上どのような位置づけで指導されているのか現状をあらためて教えてください。また、食育を推進するために、どのような研修を実施しているのかあらためてお聞きします。

- 井手内教育指導課長 中学校学習指導要領総則において、「学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること」と明記されています。また、文部科学省が発出している「食に関する指導の手引き（第二次改訂版）」に基づき、各学校において「食に関する指導に係る全体計画」を作成し、食育に取り組んでいるところです。

しかしながら、給食の時間における食に関する指導について、小学校では全員給食であるため、毎日、献立表に記載のコラム等を使った食育の指導を実施していますが、中学校では選択制であるため、指導を実施することは難しいと聞いております。今後は、おいしい給食課が実施している給食献立コンテストを中心に据え、生徒自身が考え参加する中学校給食となるよう、取り組みを進めていく必要性を感じています。

教職員研修については、今年度は年に2回、栄養教諭を対象として、教科横断的な食育の授業づくりをテーマに実施します。また、小中学校主任者を対象にした研修で、食育を切り口にした安心安全な学校生活についての講義を動画配信で実施する予定となっております。

しかしながら、一般の教員に対して、食育を教科横断的に実施するよう取り組むような研修というのは実施しておりません。以上です。

- 尾川教育長 そのほかいかがでしょうか。谷元委員。

- 谷元委員 今の中西委員の質問に対する回答について、私も意見を述べたい点がございます。

今後、中学校で全員給食を進めていくということになるわけですが、その中で、今年度、職員研修について、栄養教諭を対象にした研修を2回進められているということですが、中学校では、栄養教諭が少ないもしくはいないということもありますので、今後は、例えば保健体育科や技術家庭科の教員を対象として広げて研修を実施しながら、また、先行的に食育の

研究指定校を設けて、食育の必要性を、先生方がもっと認識しながら、食育を進めていただけるようにお願いしたいと思います。

○尾川教育長 そのほかいかがでしょう。谷元委員。

○谷元委員 現在、小学校では、給食費が1日で換算すると230円、中学校では330円と聞いています。中学校給食が食缶方式で全員給食を実施した場合、中学校の給食費は330円よりも安く設定できますでしょうか。

○尾川教育長 小林おいしい給食課長。

○小林おいしい給食課長 現在のところ、食材料費相当分として現行と同じ330円の想定をしているところがございます。本市では、食材料費とおいしい給食のバランスを踏まえて、1食当たりの金額を330円と設定しておりますけれども、大阪府内各市の中学校給食の1食あたりの金額をみますと、上位2番目となっている状況も踏まえ、今後、全員給食の具体化を図る中で、食材料費の動向など社会情勢や他市の動向を踏まえ、令和8年度からの全員給食実施の給食費の設定を検討してまいるといふ考えでございます。

○尾川教育長 谷元委員。

○谷元委員 今、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵略の影響等によって、原油価格の高騰で食材の価格は値上がりする中、価格上昇分の負担軽減に向けて、国の臨時交付金を活用し、給食費を引き上げないよう対応されたことは大変よかったですと思います。今後も、保護者負担の軽減に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

○尾川教育長 そのほかいかがでしょう。谷元委員。

○谷元委員 先ほど説明のあったアンケートの結果を見ますと、保護者は「全員を対象とした給食が望ましい」という割合が高いようですけれども、生徒は、「現行どおり給食または弁当やパン等の持参を選択できる」いわゆる選択制の割合が高いようです。全員給食を実施することを生徒にどのように周知して、今後理解を求めていく考えなのかあらためて教えてください。

○尾川教育長 小林おいしい給食課長。

○小林おいしい給食課長 今後、9月に実施を予定しておりますパブリックコメントの実施に併せて、学校向けの「中学校給食についてのリーフレット」などを作成いたしまして、給食の意義や必要性について、児童生徒への周知を行っていく予定としております。

また、先ほどの説明にもございましたけれども、今後、先行導入を図っていく学校、先行導入校において、調整を行う中で、SDGsの観点からの食に関する学校の学び、これを好事例として横展開していくなど、食育の充実を図っていく考えでございます。

○尾川教育長 谷元委員。

○谷元委員 これも、意見ですけれども、選択制の給食を望む生徒に対して、全員給食を実施する方針を理解してもらうためには、学校給食に期待できる効果について、しっかりと周知していく必要があると思います。

また、生徒だけでなく、中学校の先生たちにもご理解をいただき、全ての生徒の健全な成長を支えていくために、中学校給食の全員給食の実施に向けてご協力とご支援をいただけるようお願いいたします。そのためには、教育委員会と学校間で、全員給食実施までのスケジュールの中で、十分、連絡調整をしながら進めていただくようお願いいたします。

最後にもう1点、質問したいと思います。中学校の全員給食に向けた取り組みは、多額の財

政出動を伴います。本市の財政状況を踏まえ、人材育成という長期にわたる取り組みは先行投資と考えるべきだと思っております。現在の財政試算を踏まえると、ランニングコストがどの程度増えるのか、市財政に与える影響はどの程度なのか、分かる範囲で教えていただきたいと思っております。

○尾川教育長 小林おいしい給食課長。

○小林おいしい給食課長 あくまで現時点における概算・試算ではございますけれども、現在の選択制3,800食規模でのランニングコストは約4.2億円、これに対し、全員給食1万2,000食のランニングコストは約7.9億円と想定しております。

全員給食のランニングコストにつきましては、本市の財政事情を踏まえながら、中学校の全員給食を進めていく必要があると考えていることから、より効果的で、効率的な手法といたしまして、センター方式で、食缶方式を採用し、センターの整備手法につきましては、PFIの活用を優先的に検討するなど提案をさせていただいております。

なお、教育に必要な経費につきましては、特定財源の活用も含めまして積極的に検討していく必要があると考えており、中学校の全員給食について、今後さらに、事業手法や予算について、総合政策部とも調整しつつ、実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

○尾川教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもって質疑を終結いたします。

それでは、これから討論に入ります。討論はございませんか。

中西委員。

○中西委員 私の意見を述べさせていただきます。

私は、現役を引退するとき、もっと栄養について知識をつけておけばよかったと少し後悔していました。引退してから栄養関係の資格を取りました。

アスリートだけでなく、人が、体を動かすエネルギー源は食べることです。食べることによって体や脳を動かします。中学生男子で運動量が少ない生徒でも1日2,000キロカロリー必要です。成長期なのでカロリーだけでなく栄養バランスも必要になってきます。加工品をなるべく使わずに、毎日お弁当をつくることは大変です。親がつくると、子どもが好きなものばかりになってしまう可能性もあります。共働き世帯も増え、成長期の子どもたちに栄養バランスが考えられた給食は、親としてとても重要だと思います。

市内の小学校で講師をしている知り合いの先生から、金曜日に給食を食べてから土日に家でごはんを食べていない児童がいると聞きました。その先生は子どもたちに朝何を食べたか、月曜日には昨日何を食べたかという話をして、独自に調査もされたそうです。食べていないので排便も少なく、明らかに栄養不足のようだという事でした。食べて体をつくることを基本としていた私は衝撃を受け、このことから頭が離れませんでした。その子ども達が今、中学生になっています。全員給食ではありません。今どうしているのでしょうか。2010年に起きた大阪2児餓死事件や、2020年に福岡で起きた5歳児餓死事件など子どもが餓死をする事件が後を絶ちません。このような事件が後を絶たない中、枚方でも起こらないと言い切れないように思います。栄養士が季節に合わせたメニューで栄養バランスがとれた食事が1日1回は最低限必要だと思います。

先日、第一学校給食共同調理場を視察し、小学校給食を試食してきました。七夕に、だしの

味がしっかりついたおそうめん、季節や行事に合わせたメニューでした。調理場の中も少し見せていただきましたが、中学校給食を仕分ける場所がとて多く、話を聞くと中学校給食の調理員さんは小学校給食の調理員さんより2時間早く出勤しているとのことでした。食事の量はみんなそれぞれ違います。たくさん食べたい子も、少ししか食べれない子も栄養満点の給食を全員給食にし、選択制ではなく、ランチボックスでもなく、生徒間の格差をなくし、みんなが同じものを食べられる食缶方式になることを私は希望します。小学校では食育について学んでいるように思いますが、成長期真っただ中の中学生にも食育をもっと推進し、給食を通して知識を学んでいける仕組みづくりも大事だと思います。

導入方法や費用などには課題もありますが、枚方市教育大綱にもあります「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」になるために一日でも早い中学校全員給食ができるように願います。この観点から、中学校の全員給食の導入を前提とした「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の内容に賛成します。以上です。

○尾川教育長 ありがとうございます。

では、橋野委員お願いします。

○橋野委員 私からも討論をさせていただきます。

今年度より、あらためて中学校の配膳室を視察させていただいたり、第一学校給食共同調理場にも視察させていただいています。また、牧野小学校では単独調理場で、調理員さんたちに子どもたちがお礼を言いながら給食を受け取る姿を見ていると、学校敷地内にある単独調理場は、とてもよかったです。

小倉小学校では、6年生の40人学級で、多いクラスでも、12時15分に授業が終わり、12時35分には食べ始められることで、他校でも、大体20分くらいで給食の用意ができるとのことでした。中学校においては、時間割の調整は必要ですが、食缶方式になっても、配膳にそれほど問題はないのではないかと思います。

令和3年2月の臨時的な給食提供について、アンケート調査の結果を見ても、中学校給食を食べたことがないと回答された生徒が約半数いました。

知り合いから聞いた話で、「予約システムの登録が難しく、2学期から中学校給食を利用したいが、パスワードやIDがわからないのでつい後回しになってしまう」このようなご意見をお聞きしています。もちろん教育委員会では、Q&Aを示していて、おいしい給食課に連絡して、学校を通して、パスワード、IDの連絡がもらえるようになっているのですが、毎日忙しくされていると後回しになってしまうのが現状だと思います。幸い、このご意見をいただいた保護者の方は、おいしい給食課に電話をされ、9月より中学校給食を利用されるとのことでした。おいしい給食課の丁寧な対応に、感謝の言葉をいただきました。このような保護者も少なからずおられると思います。

食育はわかっているけど、家庭でつくる献立はパターン化しがちです。

私は、中学生の成長の時期に、食育と栄養と食事バランスが必要だと考えます。この観点から、中学校の全員給食の導入を前提とした「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の内容に賛成します。

○尾川教育長 ありがとうございます。では、近藤委員お願いします。

○近藤委員 何遍もここでお話している情報でございまして、平成21年の大阪府公立中学校スク

ールランチ等の推進協議会最終結果としては、大阪府公立中学校は、その当時、中学校給食の実施率は7.7%、全国が80.5%ですので、遠く及ばない現状があったというところがございます。

平成23年大阪府助成制度が創設されまして、平成25年には「中学校給食に関する実施手法等に関する方針」で中学校給食の必要性が示されました。その後、令和2年には、大阪府公立中学校の実施率は79.7%で、全国の85.3%におおむねこの10年間で、追いついてきたのかなと感じます。

今や大阪府下の市町村におきましても全員喫食に向けた、現状の方法で言いますと、食缶方式なのかランチボックス方式なのかということがあったり、調理方法につきましても、センター方式なのか民間調理場活用方式なのか自校方式なのか親子方式なのかと、いろいろな違いはあれども、大きくトレンドは、中学校全員喫食が、この10年で、ご家庭の共稼ぎ世代のニーズ、あるいはコロナ禍での経済格差の課題も含め、児童生徒の食育の観点からも、本市においては、早急に取り組むべき教育課題と感じております。

2022年3月25日、第5回枚方市中学校給食のあり方懇話会におきまして、専門家の今城委員は、「枚方市は前向きに検討する時期ではないでしょうか」「健康上、教育上、なぜ全員喫食をしないのか」あるいは「できない理由を明らかにすることも必要」と述べておられ、全く私も同感でございます。

令和3年度の普通会計の決算概況からも、歳入が総額263億円減ってございましたけれども、事業の優先性、優先順位からは外せない事業と私自身は考えております。先ほども述べていただいた特定財源の活用も含め、ぜひ積極的な検討を重ねて進めていただけたらと、よろしく願いいたします。以上です。

○尾川教育長 谷元委員。

○谷元委員 成長期にある児童生徒にとって、健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせないもので、中学生の時期というのは、食べ盛り、伸び盛りの、まさしく成長期にあると言えます。

また、心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた豊かな食事が必要です。学校給食は、児童生徒の健康の増進、体力の向上を図ることはもちろん、食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材として、給食の時間をとり、各教科等において活用することが求められています。

学習指導要領には食育の推進が位置づけられており、児童生徒が食に関する正しい知識を身につけ、自らの食生活を考え、望ましい食習慣を実践できるよう、学校教育活動全体で効果的な取り組みが必要であると明記されています。

ご承知のとおり、令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、学校教育にも様々な変化と課題が出てきております。

今、中学校給食で、私が感じている課題は、食育の推進です。私は、小学校で教員と管理職を約32年間実践してきました。小学校では、給食の時間になると、子どもたちと給食の用意をし、完食することを目標に給食をいただけてきました。好き嫌いの多い小学生の時期に完食をすることは、指導する側にとっても、子どもたちにとっても、簡単なことではありません。ですが、みんなで同じものを食すことで、嫌いなものでも少しずつ食べることができるようになった子どもは多くいます。完食することを無理強いせず、嫌いなものを少しでも食べることが

できれば、みんなで喜び、子どもたちも励まし合いながら、みんなで給食を食べることを楽しんできました。小学校では、給食当番の子どもは、毎日、今日の献立をみんなに紹介しています。また、調理員さんが毎日工夫して、おいしい給食をつくってくださっていることや、栄養教諭が子どもたちと一緒に作った給食の動画の紹介をすることで、食育の学習につなげている学校もあります。このように、小学校では、給食は教育の一環であるという認識が一般的であり、学校全体で食育の取り組みを進めています。コロナ禍で、子どもたちは今、防止ガードを机に置き、黙食で給食時間を過ごしています。以前のように、グループになって楽しくおしゃべりをしながら、おいしく給食をいただいているようではないようで残念です。

献立については、中学校でも、栄養教諭による献立作成が行われており、栄養、季節、郷土料理、行事食を大切に、月ごとになります。テーマを設けて考えておられます。また、給食献立コンテストに積極的に参加する中学校の生徒も多くおり、入賞作品は、中学校給食にも登場し、大変好評のようです。献立表の裏面には、レシピも掲載され、生徒が自分でも作れるように工夫されています。

中学校では、小学校給食と比較して、中学校給食での残食が多い傾向にあります。小学校での残菜率は、令和2年度平均3.9%、令和3年度平均4.9%でした。中学校での残菜率は、令和3年12月の調査では、多い日で残菜率は30.6%、少ない日で10.8%であったと報告されています。中学校給食の残食の多さの原因として、ランチボックスなどで蓋をしてしまうと、残しても分からない。再加熱の必要があり、保温状態を維持する時間が長くなり、色合いが茶色くなりやすいなどが報告されています。

小学校に比べ、中学校では総合的な学習の時間でSDGsの取り組みが進んでいます。SDGsでフードロスの問題を考えている中学生も多くいる中で、これほど給食を残しているとは私も思ってもいませんでした。

中学校給食で残食が多い理由の1つに、食育が進んでいないことが想定されます。また、中学校は、栄養教諭の配置が少なく、食育に関する教員の指導が行き届かないことも起因していると考えられます。つまり、生徒全員を対象とした統一的な食に関する指導が、中学校では困難な状況にあると言えます。

中学校給食あり方懇話会の委員で、摂南大学農学部の今城安喜子先生は、「文科省が食育の実施を通達している中で、学校全体で食育を進めていく必要があります。先生一人一人が食育をしていかなければならないという意識づけが必要です。食育の推進において、課題のある食生活を解決するには、給食を手本とするのがよいのではないかと思います」と懇話会で意見を述べておられます。また、全員給食を実施することで、効果が期待できることとして、6点挙げておられます。1点目は、とにかく給食は、栄養バランスに優れている。2点目、継続的にみんなが食べることができる。3点目、生徒間に格差ができない。これは教育的にとってもよいことである。4点目、効果的な食育を推進することができる。5点目、給食を教材として利用することで、食育の時間の確保ができる。6点目、みんなで食べることで、マナーについても考えることができる。最終的に、食の自立を目標にするのがよいと思います。との助言をいただきました。

食育の推進と充実を図るためには、全員給食が一番確実な手段であると思いました。私は、枚方市の中学校給食が、成長期の中学生を誰一人取り残すことなく、全ての生徒が平等で健全

な学校生活を過ごせるよう、小中一貫した全員給食が必要であると考えます。

この観点から、中学校の全員給食の導入を前提とした「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の内容に賛成いたします。以上です。

○尾川教育長 ありがとうございます。

それでは、私からも、「今後の中学校給食に関する方針（素案）」について、討論に参加させていただきます。

本日も様々なご意見・討論をいただきました。私としては、学校給食法第1条の目的を達成するため、全ての生徒が「中学生にとってふさわしい給食」を食べることができる環境を整備し、全ての生徒の健全な成長を支えていくために、大前提となる安全安心な給食の提供を継承しつつ、コロナ禍などの影響があったとしても、持続的に給食を提供可能な体制を整えた上で、中学校給食の全員給食に向けた取り組みを着実に進めていく必要があると考えてございます。

中学校給食の全員給食が重要な点として、大きく3つの観点を挙げたいと思っております。

1点目でございますが、繰り返しになりますけれども、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の影響等による原油価格高騰等による家計負担の増加によりまして、持参する弁当の量を減らさざるを得ないというようなことが想定されること。それから、こうした影響に左右されないようにすることが望ましいこと、2点目として、災害時であっても学校給食が栄養確保のバックアップの役割を果たすことが可能であること、3点目としまして、1日3食食べていない生徒の中に給食を食べていない生徒が存在していること。また、データとしては少し不十分な面もあるかもしれませんが、就学援助世帯で「弁当やパンを持参」している家庭がある状況や、一日2食、お昼は食べていないとしているような状況もみられる状況がございます。枚方市の中学校の生徒が誰一人取り残されることなく、1日1食でも栄養バランスのとれた食の確保が必要と考えられること。この以上の3つが特に重要であると私としては考えてございます。

また、教育に関しましては、中学校給食以外でも、支援教育の見直しやタブレット端末の更新、学校施設の長寿命化など、今後も多額の経費を要することが想定されますが、教育は未来への先行投資であり、これらいずれの事業も優先順位の高いものであると考えてございます。

一方で、本市の財政事情も踏まえながら、中学校の全員給食を進めていく必要があると考えておりますので、より効果的で、効率的な手法として、センター方式で、食缶方式を採用し、センターの整備手法については、PFIの活用を優先的に検討するなどの提案が含まれております。なお、こうした教育に必要な経費については、特定財源の活用も含めて積極的に検討しながら、特に中学校の全員給食に必要な経費については、今後さらに、総合政策部等とも調整しつつ、実現に向けて努力するというふうに、先ほども発言があったところでございます。

以上のことから、中学校の全員給食の導入を前提とした「今後の中学校給食に関する方針（素案）」の内容に賛成いたします。

それでは、これをもって討論を終結いたします。

これから、議案第5号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○尾川教育長 ご異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり可決することに決しました。

なお、今後のスケジュールですが、本日決定しました「今後の中学校給食に関する方針（素案）」をもとに、8月12日の総合教育会議において、市長に中学校の全員給食の実施に向けた取り組みをお願いしたいというふうと考えております。

以上、本臨時会に付議された案件は全て議了しました。

これをもって、令和4年第2回枚方市教育委員会臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。

署名欄

_____(教育長) 尾 川 正 洋_____

_____(教育委員) 谷 元 紀 之_____